

行政評価及び市民参加取組状況の検証結果報告書

つくば市行政経営懇談会設置要項第2条の規定に基づき行政評価及び市民参加取組状況の検証を実施したので、その評価結果を報告いたします。

平成31年（2019年）3月6日

つくば市長 五十嵐 立青 様

つくば市行政経営懇談会

| | | |
|----|----|-----|
| 座長 | 中村 | 紀一 |
| 委員 | 上田 | 孝典 |
| 委員 | 江藤 | 睦 |
| 委員 | 岡本 | 俊一 |
| 委員 | 垣花 | 京子 |
| 委員 | 小玉 | 喜三郎 |
| 委員 | 佐藤 | 毅章 |
| 委員 | 島田 | 由美子 |
| 委員 | 堀 | 賢介 |
| 委員 | 溝上 | 智恵子 |
| 委員 | 柳瀬 | 敬 |
| 委員 | 矢野 | 光義 |

はしがき

今年度の行政経営懇談会は「つくば市戦略プラン」が掲げる 30 の個別施策を対象に、関係職員からのヒアリングを実施、議論を重ね、外部評価を行った。結果はAが 1、Bが 28、Cが 1 となった。Bが圧倒的に多いことについて、もう少し差異化の方法がないか、委員の間でひとしきり話題となった。

「評価段階B」とは、施策の取組実績の効果を検証し、その「施策について成果が判断でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される」ものを指す。だが、同じBとはいっても、それぞれの施策評価の要因である事業の中身に立ち入った「意見・要望」に目を通すとB評価は微妙に異なってくる。

半世紀も前、私が学生時代を過ごした大学では、B-average という成績評価制度をとっていた。学期簡潔で授業が行われ、成績がつく。評価はA（1 単位につき 4 点）、B（同 3 点）、C（同 2 点）、D（同 1 点）とここまでが合格。E（同 1 点未満）は不合格である。原則 1 学期 13 単位を履修する。学期の 1 単位評価の平均（average）が B（3 点）以上であれば、学習成果が認められ、自学期には 13 単位以上の科目を申請できる。（但し、1 科目でも D、E がある場合、B-average 制度は適用されない。）

ここで、政治学専攻の A 君の○学期の成績表をみてみよう。表—1 は、A 君がこの学期の到達目標等を指導教員と相談して履修科目の申請を行い、1 学期間努力した結果である。

表—1 政治学専攻 A 君の成績表（○学期）

| 履修科目 | 単位 | 成績 | 得点 |
|-------|----|----|-----------------|
| 政治学原論 | 3 | B | 9 |
| 行政学 | 3 | A | 12 |
| 地方自治論 | 3 | B | 9 |
| 比較政治 | 2 | C | 4 |
| 政治学演習 | 2 | A | 8 |
| 合計 | 13 | B | 42（1 単位平均 3.23） |

A 君のこの学期の成績は 13 単位、42 点で、平均 3.23 点。D、E もないので B-average を獲得としている。勉学の成果を認められ、次学期は 13 単位以上の科目を申請できる権利を得る。

かくして民間企業の人事評価制度等では、すでに当たり前になっているこうした仕

組みを施策評価に導入することで、B評価の間の微小な差異化が可能となり、科目(事業)間の切磋琢磨も期待できる。

さて、半世紀前の学生時代を振り返って、4年間 12 学期、私の成績がすべてAで埋まったことは一度もなかった。

平成 31 年 3 月

つくば市行政経営懇談会

座長 中村 紀一

目次

| | | |
|-----|--------------------|----|
| I | 行政評価について | 1 |
| 1 | 行政評価の経緯 | 1 |
| 2 | 施策評価について | 2 |
| (1) | 評価の対象と時点 | 2 |
| (2) | 評価の実施体制 | 2 |
| (3) | 評価の視点 | 2 |
| 3 | 行政経営懇談会による評価について | 2 |
| (1) | 分科会の編成と施策分担 | 2 |
| (2) | 分科会の開催日程 | 4 |
| 4 | 懇談会による評価結果について | 6 |
| II | 市民参加取組状況の中間報告について | 38 |
| 1 | 背景・経緯 | 38 |
| 2 | 中間報告の対象 | 38 |
| 3 | 中間報告の内容について | 38 |
| 4 | 懇談会による中間報告への意見について | 39 |
| 別添 | 参考資料 | 40 |

I 行政評価について

1 行政評価の経緯

つくば市では、平成 13 年度から事務事業評価を実施し、翌平成 14 年度からはつくば市行政評価懇談会による外部評価を導入した。

その後、平成 19 年度にはつくば市行政経営懇談会（以下、「懇談会」という。）が新たに組織され、引続き行政評価の外部評価を実施した。

これらの成果として、平成 20 年度までに 18 事業の廃止が決定されるなど、一定の実績をあげることができたが、評価を進めていく中で個別の事業単位の評価しかできないことや、関連する事業を相対的に評価することができないことなど、事務事業評価の課題も見えてきた。

こうしたことから、懇談会は平成 24 年度より、第 3 次つくば市総合計画後期基本計画（以下、「総合計画」という。）の体系に基づく施策全般に視点を当てる『施策評価』を対象として評価を実施し、つくば市の行政運営を経営的視点から施策を見た提言を行い、政策判断の材料を提供してきた。

平成 28 年度からは、つくば市戦略プラン（以下、「戦略プラン」という。）に掲げる個別施策の進捗状況について評価を行い、今年で 2 回目の実施となる。

2 施策評価について

(1) 評価の対象と時点

評価の対象は、戦略プランに掲げた個別施策の 30 施策とする。また、評価の時点は、平成 27 年度から平成 29 年度までの戦略プランの施策の進捗結果に基づき実施した。

(2) 評価の実施体制

各部局の長と協議の上、次長が自己評価を行った。評価する施策に複数の部局が関係する場合は、主管部局を定め主管部局次長のもと関係する全ての部局の次長が協議して評価した。

(3) 評価の視点

自己評価による施策評価は、戦略プランの「個別施策の方向」に示された目的に対して、取組実績が効果的であるかどうか、「予算事業別事務事業評価シート」の総合評価、市民の満足度、施策の成果を参考として評価した。

3 懇談会による評価について

個別施策を所管する各部局による自己評価の実施後、懇談会による評価を実施した。評価の実施に当たっては、分科会方式を採用し、2 班体制で各班 4 回の分科会を開催し、主管部次長が調書に基づき説明を行い、分科会によるヒアリングを実施した上で評価した。

分科会による評価及び提言は、第 2 回懇談会において意見の調整を行った。

(1) 分科会の編成と施策分担

次のとおり分科会を編成し、戦略プランの基本施策ごとに個別施策を分担して評価を行った。

[第 1 班]

上田孝典（分科会座長）、江藤 睦、岡本俊一、垣花京子、中村紀一、柳瀬 敬

[第 2 班]

溝上智恵子（分科会座長）、小玉喜三郎、佐藤毅章、島田由美子、堀 賢介、矢野光義

[施策の分担]

| | | |
|----|----------------|-----|
| 1 | 高齢者支援体制の整備 | 1 班 |
| 2 | 子育て環境の整備 | 1 班 |
| 3 | 障害者の地域生活支援 | 1 班 |
| 4 | 生活困窮者福祉の推進 | 1 班 |
| 5 | 健康づくりの推進 | 1 班 |
| 6 | 小中一貫教育の充実 | 1 班 |
| 7 | つくばスタイル科の充実 | 1 班 |
| 8 | 教育環境の整備 | 1 班 |
| 9 | 教育現場の支援体制整備 | 1 班 |
| 10 | スポーツの振興 | 1 班 |
| 11 | 文化芸術の振興 | 1 班 |
| 12 | 文化財保護の推進 | 1 班 |
| 13 | 市民協働の推進 | 1 班 |
| 14 | 男女共同参画社会の推進 | 1 班 |
| 15 | 国際化の推進 | 1 班 |
| 16 | 災害に強いまちづくりの推進 | 2 班 |
| 17 | 犯罪に強いまちづくりの推進 | 2 班 |
| 18 | 交通移動体系の整備 | 2 班 |
| 19 | 住環境の整備 | 2 班 |
| 20 | つくば駅周辺地区の活性化 | 2 班 |
| 21 | 低炭素化の推進 | 2 班 |
| 22 | 環境意識の啓発 | 2 班 |
| 23 | 資源の保全・活用 | 2 班 |
| 24 | 商工業の育成 | 2 班 |
| 25 | 農業の振興 | 2 班 |
| 26 | 科学技術の振興 | 2 班 |
| 27 | ロボットのまちつくばの推進 | 2 班 |
| 28 | 観光の振興 | 2 班 |
| 29 | シティ・プロモーションの推進 | 2 班 |
| 30 | 行政改革の推進 | 2 班 |

(2) 分科会の開催日程

[第1班]

第1回分科会 平成30年8月9日(木) 午後2時から

- 1 高齢者支援体制の整備 (保健福祉部)
- 3 障害者の地域生活支援 (保健福祉部)
- 4 生活困窮者福祉の推進 (保健福祉部)
- 5 健康づくりの推進 (保健福祉部)

第2回分科会 平成30年8月21日(火) 午後2時から

- 2 子育て環境の整備 (こども部)
- 10 スポーツの振興 (市民部)
- 11 文化芸術の振興 (市民部)
- 12 文化財保護の推進 (教育局)

第3回分科会 平成30年9月5日(水) 午後2時から

- 6 小中一貫教育の充実 (教育局)
- 7 つくばスタイル科の充実 (教育局)
- 8 教育環境の整備 (教育局)
- 9 教育現場の支援体制整備 (教育局)

第4回分科会 平成30年9月25日(火) 午後2時から

- 13 市民協働の推進 (市民部)
- 14 男女共同参画社会の推進 (市民部)
- 15 国際化の推進 (市民部)

[第2班]

第1回分科会 平成30年8月8日(水) 午後3時から

- 17 犯罪に強いまちづくりの推進 (建設部)
- 20 つくば駅周辺地区の活性化 (都市計画部)
- 18 交通移動体系の整備 (都市計画部)

第2回分科会 平成30年8月23日(木) 午後3時から

- 19 住環境の整備 (建設部)

- 21 低炭素化の推進 (生活環境部)
- 22 環境意識の啓発 (生活環境部)
- 16 災害に強いまちづくりの推進 (市長公室)

第3回分科会 平成30年8月31日(金) 午後3時から

- 27 科学技術の振興 (政策イノベーション部)
- 28 ロボットのまちつくばの推進 (政策イノベーション部)
- 29 シティ・プロモーションの推進 (市長公室)
- 30 行政改革の推進 (総務部)

第4回分科会 平成30年9月10日(月) 午後3時から

- 23 資源の保全・活用 (生活環境部)
- 24 農業の振興 (経済部)
- 25 商工業の育成 (経済部)
- 28 観光の振興 (経済部)

4 懇談会による施策の評価結果

全施策の評価結果は、次のとおり。

| 評価段階 | 施策数 |
|---|-----|
| A：施策について優れた成果が確認できることから、推進させるべきであると判断される。 | 1 |
| B：施策について成果が判断でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | 28 |
| C：施策の成果が期待できないため、大幅な見直しを要する | 1 |

各施策の個別評価結果は、次のとおり。

戦略プラン個別施策評価一覧表

| 基本施策 | 個別施策番号 | 個別施策 | 評価 |
|--------------------|--------|---------------|----|
| 健康・福祉サービスを強化する | 1 | 高齢者支援体制の整備 | B |
| | 2 | 子育て環境の整備 | B |
| | 3 | 障害者の地域生活支援 | B |
| | 4 | 生活困窮者福祉の推進 | B |
| | 5 | 健康づくりの推進 | B |
| 教育日本一を目指し教育内容を充実する | 6 | 小中一貫教育の充実 | B |
| | 7 | つくばスタイル科の充実 | B |
| | 8 | 教育環境の整備 | C |
| | 9 | 教育現場の支援体制整備 | B |
| スポーツと文化・芸術を振興する | 10 | スポーツの振興 | B |
| | 11 | 文化芸術の振興 | B |
| | 12 | 文化財保護の推進 | B |
| 共生のまちづくりを推進する | 13 | 市民協働の推進 | B |
| | 14 | 男女共同参画社会の推進 | B |
| | 15 | 国際化の推進 | B |
| 防災力・防犯力を強化する | 16 | 災害に強いまちづくりの推進 | B |
| | 17 | 犯罪に強いまちづくりの推進 | B |

| | | | |
|------------------|----|----------------|---|
| 防災力・防犯力を強化する | 18 | 交通移動体系の整備 | B |
| 交通環境を整備する | 19 | 住環境の整備 | B |
| 魅力ある居住・交流環境を創出する | 20 | つくば駅周辺地区の活性化 | B |
| 低炭素化に貢献する | 21 | 低炭素化の推進 | B |
| 自然環境を保全・活用する | 22 | 環境意識の啓発 | B |
| | 23 | 資源の保全・活用 | B |
| 産業競争力を高める | 24 | 商工業の育成 | B |
| | 25 | 農業の振興 | B |
| 科学技術をまちづくりにいかす | 26 | 科学技術の振興 | A |
| | 27 | ロボットの街つくばの推進 | B |
| つくばの魅力を発信する | 28 | 観光の振興 | B |
| | 29 | シティ・プロモーションの推進 | B |
| 自立した行政運営を推進する | 30 | 行政改革の推進 | B |

| | | | | |
|---------|--|------------|-----|-------|
| 基本施策 | 健康・福祉サービスを強化する | | | |
| 個別施策名 | 1 | 高齢者支援体制の整備 | 主管部 | 保健福祉部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 高齢者が安心していきいきと暮らすまちを目指して、健幸長寿日本一を目指した取組など、健康づくりや安心して暮らすための環境づくりに取り組む。 | | | |
| 個別事業 | (1) ICT高齢者いきいき健康アップ事業 (2) 運動推進事業 (3) いきいき・元気はつらつ事業 (4) シルバーリハビリ体操指導士出前体操教室 (5) 出前教室事業 (6) 介護支援ボランティア事業 (7) ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム設置事業 (8) 地域密着型サービス整備費等補助事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援については、「健康でいること」、「健康寿命を伸ばすこと」の重視という方向から、健康でなくとも地域で暮らせるという方向に重点を置いていったほうがいいのではないかと。 ・高齢者支援については、今後も地域性を鑑みて、高齢者率の高い地域に対して重点的に対応していくことが必要と考える。 ・高齢者の支援体制の仕組みと運用のそれぞれにおいて、他部局、民生委員、包括支援センター等との連携が必要と思う。 ・高齢者を包括的にケアしていくためには、協力員というボランティアだけではなく、自由に動けるケースワーカーを増やさなければならない。 ・支援体制については、地域の協力だけでは限界があることから、相互扶助等のモデルケースをつくり、それを普及させていくことを検討してもらいたい。 ・緊急通報システム等について、日中独居の方への支援体制を整えていくべきではないかと。 | | |
| 提言 | 高齢者施策について「仕組みを構築」する施策と「円滑に運用」する施策を整理しながら、施策全体高齢者支援の事業となるように、考えて施策を進められたい。 包括支援センターを中心として、各地域に、的確なニーズに対応できるようなワンストップの拠点をつくっていくことを期待したい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|----------|-----|-------|
| 基本施策 | 健康・福祉サービスを強化する | | | |
| 個別施策名 | 2 | 子育て環境の整備 | 主管部 | こども部 |
| | | | 関係部 | 保健福祉部 |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 子どもは社会の希望であり未来の力であるという認識のもと、子どもを安心して生み、育てることができる環境を整備するなど、子どもの成長に合わせた継続的な支援により、子どもが健やかに育つことができる地域社会づくりを進める。 | | | |
| 個別事業 | (1) 周産期医療体制の整備事業 (2) あかちゃん訪問事業 (3) 母子健康診査事業 (4) 民間保育園整備事業 (5) 子育て支援拠点事業 (6) 放課後児童クラブ事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・あかちゃん訪問事業について、病気や障害など特別なニーズを必要とする母子へのフォローアップが少ないという話を聞くことがある。 ・子育て環境を、子ども、母子、家族としたときに、家族支援というものがあるべきだと思う。 ・市内で出産できる病院が非常に少ないと感じる。これから出産をされる方が、市内で出産できる仕組みづくりについて、対策を考えてもらいたい。 ・未成年や未婚の出産等に対応した形での養護施設等も考えていく必要がある。 ・放課後児童クラブ事業については、児童クラブに申し込めなかった方がいるということも考えて、どういうものであれば利用できるかという調査から行ってもらえると、ニーズを把握しやすくなると思う。 | | |
| 提言 | <p>出産から子育て、就学というプロセスの中で、切れ目のない相談あるいは支援体制を行うことを引き続き実施されたい。</p> <p>個別のニーズに対応した形でのフォローアップ、さらに、子どもたちの人口が急増急減している地域の中で、それぞれの地域のニーズを踏まえた対応に努められたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|---|------------|-----|-------|
| 基本施策 | 健康・福祉サービスを強化する | | | |
| 個別施策名 | 3 | 障害者の地域生活支援 | 主管部 | 保健福祉部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 障害のある人もない人も、すべての市民が共生できる社会の実現に向けて、障害福祉サービス等の充実を図り、障害のある人の日常生活及び社会生活の総合的な支援の充実に努める。 | | | |
| 個別事業 | (1) チャレンジアートフェスティバル事業 (2) 障害福祉サービス事業 (3) 障害者日中一時預かりサービス利用費助成事業 (4) 障害者移動支援サービス利用費助成事業 (5) おひさまサンサンフェスティバル事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジアートフェスティバル等においては、企画や制作の段階で市民と障害者、施設が関わるような、インクルーシブ、ユニバーサルの方角を目指すことが大事だと考える。 ・障害者移動支援サービスについては、どのようなときに、どのように利用できるのかということがわかりにくいいため、使いやすいサービスとして周知方法を検討されたい。 ・国の助成事業については、より充実させるために市の一般財源として別途手当をするような仕組みづくりが可能か検討してもらいたい。 ・身体障害者施設の不足を課題としてあげているが、対応されていないため、検討が必要である。 | | |
| 提言 | おひさまサンサンフェスティバルやチャレンジアートフェスティバルについては、インクルーシブという理念を実現できるように、一般の人たちと障害を持っている人たちが共に事業をつくり上げていく方向性も加味する形で事業の改善を図られたい。 また、サービス事業については、少し柔軟性を持たせた形で、利用者の目線に立ち、利用しやすい仕組みづくりを検討されたい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|------------|-----|-------|
| 基本施策 | 健康・福祉サービスを強化する | | | |
| 個別施策名 | 4 | 生活困窮者福祉の推進 | 主管部 | 保健福祉部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 生活の問題や社会での人間関係など、複合的で多様な課題を抱えた市民に、問題の早期発見や官民連携した支援策の検討など、様々な支援メニューを用意し、自立へ向けた支援を包括的に実施する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 生活困窮者自立支援 (2) 生活相談・指導 (3) 生活困窮者世帯の子どもに対する学習支援事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算事業別事務事業評価シートに示された指標については、「〇% (〇人) 就労」のように、実数も含めて表記したほうがわかりやすいのではないか。 ・ 生活困窮者世帯の子どもに対する学習支援事業については、子どもの場合、自分が学習支援の対象者であるという認識を持つことで、ある意味で負い目を負わせることになってしまうという問題がある。 ・ あらゆる福祉関係機関との連携が必要となることから、連携、情報、効果というものに力を入れたらどうか。 ・ 教育局の教育相談センターや教育相談支援員との連携も必要である。 | | |
| 提言 | 主に子どもに対する学習支援については、子どもたちの不利益とならないように、なおかつ生活困窮の連鎖を断ち切るような施策として、今後市内全域で展開していくことを期待したい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|----------|-----|-------|
| 基本施策 | 健康・福祉サービスを強化する | | | |
| 個別施策名 | 5 | 健康づくりの推進 | 主管部 | 保健福祉部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 健康に関心を持ち自分の健康に対して主体的に取り組むことができ、健康の保持増進が図れるように支援し、健康寿命の延伸に取り組む。また、健康づくりの拠点づくりなど支援体制を整備する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 健（検）診事業 (2) 特定保健指導事業 (3) つくば健康マイレージ事業 (4) 栄養改善事業 (5) 特定健診事業 (6) 生活習慣病予防教育事業 (7) 生活習慣病予防相談事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの推進の中で、身体的な健康には力を入れているが、精神保健については触れられていない。地域の精神的な面や心の健康ということについて、取り組むといいのではないか。 ・教育委員会等と連携し、子どもへの健康教育を考えてもらいたい。 ・つくば健康マイレージ事業とICT高齢者いきいき健康アップ事業への参加方法がわからないため、市が積極的に勧めて、参加できるようなシステムにしてもらえるといい。また、これらの事業は運動状況を記録するという点で共通していることから、1本の事業として統合できるのではないかと思う。 ・健康は非常にプライベートな問題であることから、市が無理に民間と同じような意味合いで取り組む必要はないのではないか。 ・検診受診の啓発については、現在実施している方法がベストと思わず、様々な形を検討されたい。 ・検診受診率向上のためには、根本的な部分で対応が必要と考える。 | | |
| 提言 | 検診受診率向上のための啓発事業の内容について再考されたい。 また、子どもも含めた形で、市民全体の健康増進のための意識、動機づけを高めていくような方法を検討されるとともに、精神保健等についての配慮を進められたい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|-----------|-----|-----|
| 基本施策 | 教育日本一を目指し教育内容を充実する | | | |
| 個別施策名 | 6 | 小中一貫教育の充実 | 主管部 | 教育局 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 広い視野を持って自ら学び、自ら考え、判断して行動できるグローバルな人材育成のため、幼・保・小連携、小中一貫教育をとおり、「生きる力」＝知・徳・体のバランスのとれた力を育成する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 小中一貫教育推進事業 (2) つくばスタイル科の振興事業 (3) 豊かな心育成事業 (4) 教育広報事業 (5) 幼保小連携教育推進事業 (6) 小中一貫教育推進体制の整備事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育ありきではなく、小中一貫教育を実施する目的に立ち戻り、メリット・デメリットを含めて常に検証しながら進めていく必要がある。 ・小中一貫教育が具体的に動き出したことで、どのような効果を狙っているのか、成果が上がっているのかということについて、市は検証等を行っているのか。他自治体との比較、検証が必要と考える。 ・学校の大規模化等を予測しながら教育していかなければならない。子どもたちへの教育のやり直しはできないため、不安に思う。 ・豊かな心育成事業については、小中一貫教育との関連性はないのではないか。 ・個別施策と個別事業がどのように結びついてくるのか、わからないということがある。 もう一度、教育とは何か、つくばにおける教育は何かということを考えて上で、重点事項を組み立ててはどうか。 | | |
| 提言 | 小中学校での教育を連携させていくという観点や、教育方針の一貫性、あるいは教育内容の連続性について、評価、検証を行った上で、小中一貫教育の方向性を検討されたい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|-------------|-----|-----|
| 基本施策 | 教育日本一を目指し教育内容を充実する | | | |
| 個別施策名 | 7 | つくばスタイル科の充実 | 主管部 | 教育局 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 今後さらに発展する科学や情報化技術に対応していくため、つくば市の特色をいかし、市内研究機関や大学等と連携協力しながらICT教育や科学教育を推進する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 小学校ICT教育推進事業 (2) 中学校ICT教育推進事業 (3) 情報教育振興事業 (4) つくば科学出前レクチャー事業 (5) つくばちびっ子博士事業 (6) つくば科学フェスティバル事業 (7) 小中学校プレゼンテーションコンテスト事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・つくばスタイル科の充実という個別施策と個別事業がどのように結びついているのかわからない。紐づく個別事業を見直さない限り、評価はできないと思う。 ・つくばスタイル科の考え方は学校間で統一されていると思うが、学校間での学力格差については検証しているのか。 ・つくば市は科学のまちというイメージはあるが、ICT教育がそこまで必要だろうかとも思う。 ・教育については、まず、地頭をつくってからスキルを身に着けるという方向ではないだろうか。小学校低学年からICT教育を行うということについては疑問がある。 ・ディスレクシア等の障害のある児童、生徒について、電子機器の持ち込みを許可するなどの柔軟な対応を検討されたい。 | | |
| 提言 | 市内全域での条件整備を進められたい。 児童、生徒の適正に応じて、相応しいICT教育を進められたい。 また、つくばスタイル科の内容はICT教育に関するカリキュラムのみではないことから、ICT教育の推進について、つくばスタイル科の推進という施策で特出せず、教育環境の整備等の個別施策において評価すべきである。 さらに、つくばスタイル科の内容を検証しながら施策を進められたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|---------|-----|-----|
| 基本施策 | 教育日本一を目指し教育内容を充実する | | | |
| 個別施策名 | 8 | 教育環境の整備 | 主管部 | 教育局 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 子どもたちが日々、安全で快適な教育環境のもと学習に取り組めるよう、学校の適正規模・適正配置を踏まえながら校舎の改築や設備の充実に取り組む。 | | | |
| 個別事業 | (1) 小学校建設事業 (2) (仮称) 紫峰学園建設事業 (小学校分) (3) (仮称) 紫峰学園建設事業 (中学校分) (4) (仮) みどりの小・中学校建設事業 (小学校分) (5) (仮) みどりの小・中学校建設事業 (中学校分) (6) (仮) 葛城北部小・中学校建設事業 (小学校分) (7) (仮) 葛城北部小・中学校建設事業 (中学校分) (8) (仮称) 新谷田部学校給食センター建設事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|----------------------------|--|
| 評価 | C | 施策の成果が期待できないため、大幅な見直しを要する。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの建設については、完成に時間がかかっているように感じる。できるだけ早く完成されればと思う。 ・学校等適正配置計画については、学校の場所と学区と通学路に関する問題がある。それらは計画して設定できないものなのか。また、学園の森義務教育学校が完成したばかりで過密化ということはおかしいのではないか。 ・学校等適正配置計画は5年に一度の見直しということだが、開発等に合せて、柔軟に対応できるような仕組みがあるといいのではないか。 ・学校等適正配置計画については、他部局との連携が必要であると考える。 ・学校の果たしていく役割として、地域との結びつきが必要である。 | | |
| 提言 | <p>教育環境を整備するにあたり、人口動態等を把握しながら柔軟に進められたい。</p> <p>また、学校の大規模化や通学路等の学区をめぐるトラブル等も発生していることから、学校等適正配置計画の策定方法を見直し、既存の学校施設の整備、修繕も適切に進められたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|--|-------------|-----|-----|
| 基本施策 | 教育日本一を目指し教育内容を充実する | | | |
| 個別施策名 | 9 | 教育現場の支援体制整備 | 主管部 | 教育局 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 教育内容の多様化、小1プロブレム・中1ギャップ等の問題など、様々な場面で教育現場に求められることが増加しており、これらにきめ細かく対応する体制を整える。 | | | |
| 個別事業 | (1) つくば市立学校市費負担非常勤講師配置事業 (2) 特別支援教育支援員配置事業 (3) つくば市総合教育研究所運営事業 (4) つくば市教育相談センター運営事業 (5) 家庭教育学級支援事業 (6) 教員のICT活用指導力向上研修事業 (7) 教職員研修事業 (8) 特別支援教育教職員研修会事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教員教職員研修会事業については、卒業した児童、生徒の親等から話を聞くといった研修内容も検討してみてもどうか。また、特別支援教員教職員だけでなく、各学校長への研修も必要である。 ・1人の教職員が研修を受けただけでは勿体ないため、教職員が研修を受けた後のフォロー体制が必要である。 ・総合教育研究所の予算事業別事務事業評価シートを見ると、研修費よりも施設整備費に費用がかかっているが、費用をかける事業の優先順位を慎重に検討してもらいたい。 | | |
| 提言 | スクールカウンセラーや教職員のスキル向上のための研修会等を適切に行い、教育現場の支援体制整備を円滑に進められたい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|---------|-----|-----|
| 基本施策 | スポーツと文化・芸術を振興する | | | |
| 個別施策名 | 10 | スポーツの振興 | 主管部 | 市民部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | すべての市民が、体力や年齢、興味や目的に応じて、スポーツに親しむことができる環境づくりに取り組む。 | | | |
| 個別事業 | (1) 各種スポーツ大会開催事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | | |
|---------|--|---|--|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・つくばマラソンの今後の方向性として、観客や応援を増やしたいということであれば、例えば「つくば国際マラソン」として、海外から招待選手を呼び、記録が出るような、注目されるようなマラソンにしていくことを提案する。 また、健康マラソンについては「つくば市民健康マラソン」として、距離をハーフマラソン程度まで延ばすと、つくばマラソンとの差別化が図れると思う。 ・つくば市として、つくばマラソンに関する一つのビジョンを今後つくられたい。 ・個別施策に紐づく個別事業が各種スポーツ大会開催事業の一つしかないということについて疑問がある。スポーツの振興という非常に大きな施策に紐づく事業が、どのような経緯でこの一つしか選ばれなかったのかわからない。 | | | |
| 提言 | <p>つくばマラソンを初めとする主催事業を継続して円滑に実施されたい。さらに、スポーツの振興にかかわる意味で、様々な方法で市民への啓発や周知を実施することで、市民に理解を深めてもらえるように取り組みを進められたい。</p> | | | |

| | | | | |
|---------|--|---------|-----|-----|
| 基本施策 | スポーツと文化・芸術を振興する | | | |
| 個別施策名 | 11 | 文化芸術の振興 | 主管部 | 市民部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 市民の文化芸術に親しむ機会を広め、自主的な文化活動の支援を行うとともに、つくば市らしい独創性のある芸術の振興に取り組む。 | | | |
| 個別事業 | (1) 芸術文化振興事業 (2) つくば市民文化祭開催事業 | | | |

| | | | | |
|---------|---|---|--|--|
| 個別施策の評価 | | | | |
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化事業について、講演会等の各事業の選定過程がほとんど見えてこない。事業の選定の透明性を確保する必要があると思う。 ・ 芸術文化事業を行政が一元的に決めるということも問題だが、講演会等を選定する財団がユニークな考えを持っている場合は文化度が高くなることも考えられる。 ・ 総合的にまちづくりの中に芸術文化を位置づけなければ、市民には定着していかないと思う。 ・ 文化芸術と国際交流との連携がまだ弱いように思う。 ・ 講演会等に来た人が足を止めたくなくなるように、講演等と絡めた企画を周りの商店が行うなど、公だけではなく、民間に協力を求めてもいいのではないか。 ・ つくば市民文化祭等においては、障害がある人たちと健常者とを分けずに、すべての市民が参加できる形をつくってもらいたい。 | | | |
| 提言 | <p>つくば市らしい文化芸術の振興、あるいはまちづくりという観点を踏まえた文化芸術の振興に努められたい。</p> <p>また、事業費や経費の執行について枠組みを設定すること、さらに、設備、施設の条件整備も進められたい。</p> | | | |

| | | | | |
|---------|--|----------|-----|-----|
| 基本施策 | スポーツと文化・芸術を振興する | | | |
| 個別施策名 | 12 | 文化財保護の推進 | 主管部 | 教育局 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 先人から受け継いできた、つくば市の多種多様な歴史・文化遺産をこれからも後世に伝えるため、市民がこれらに触れられる場の拡充に取り組む。 | | | |
| 個別事業 | (1) 文化財調査事業 (2) 小田城跡保存事業 (3) 金田官衙遺跡保存・活用事業 (4) 文化財展示講座等事業 (5) 学校での伝統文化教育支援事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・小田城跡の歴史ひろばにある小田城の説明について、大人が見て鑑賞にたえ得るものであるとよりいい。小中学生でも意義のある資料を見たほうが教育としては重要ではないか。 ・文化財に関するホームページは、文字が多く、写真が少ししか掲載されていないことから、非常に見にくいという印象である。昨今はSNSの利用が多いため、日頃からスタッフがSNS等により情報を発信していくような工夫や、市民にアピールするような方策があってもいいのではないか。 ・文化財の保存や調査は重要であるが、文化財を発信し、活用することが進められていないと思う。活用専門の職員を置くことで、情報発信について、しっかりと責任をとれる体制になるのではないか。 ・個別施策を考える際には、近現代の建築や無形文化財等も含めて文化財というものを広く捉えてほしい。 | | |
| 提言 | 文化財等の保存、調査だけでなく、教育や地域づくりに活用することを工夫するほか、実際調査した結果の分析や公表等をわかりやすく市民に伝えるように進められたい。 また、古代や中世の遺跡だけでなく、近現代も含めた形で、広く文化財というものを捉えていかれたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|---------|-----|-----|
| 基本施策 | 共生のまちづくりを推進する | | | |
| 個別施策名 | 13 | 市民協働の推進 | 主管部 | 市民部 |
| | | | 関係部 | 建設部 |
| | | | | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 様々な場面で、市民が自主的に地域の課題解決に取り組むため、活動拠点や機会の整備について支援し、市民活動の推進と市民協働のまちづくりを進める。 | | | |
| 個別事業 | (1) 市民協働まちづくり活動支援事業 (2) 区会活動振興事業 (3) アダプト・ア・ロード事業 (4) アダプト・ア・パーク事業 (5) アイラブつくばまちづくり補助金事務 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・アダプト・ア・ロード、アダプト・ア・パーク事業については、美化活動にとどまらず、地域自治の方向に進んでいくべきである。 ・アイラブつくばまちづくり補助金事務については、継続性や地域づくり、自治ということまで考えると、枠組みの変更も必要かと思う。 ・市民協働の推進という個別施策だが、市民活動や市民協働をアイラブつくばに押し込んでしまっているように思う。 ・市民協働の推進については、全庁的に行うことである。 ・区会、自治会については、一度すべて整理し、考え直してはどうか。 | | |
| 提言 | つくば市の「市民協働ガイドライン」（平成21年）や「つくば市市民参加推進に関する指針」（平成30年）を踏まえた取り組みを積極的に進められたい。 区会の加入率が低下している中で、区会と自治組織の意義について再度検討をされたい。 また、アイラブつくばについては、イベント的なもの、継続的なもの、予算規模等、幅広く、柔軟な制度にしていく工夫が必要である。 市民活動については、市民活動センターとの連携をさらに積極的に進め、情報の共有を図られたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|-------------|-----|-----|
| 基本施策 | 共生のまちづくりを推進する | | | |
| 個別施策名 | 14 | 男女共同参画社会の推進 | 主管部 | 市民部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | すべての市民が性別にかかわらず尊重しあい、また自らの意思により、社会のあらゆる分野に参画する機会を確保することにより、男女が均等に利益を享受し、ともに責任を担う男女共同参画社会づくりを目指す。 | | | |
| 個別事業 | (1) 男女共同参画会議開催事業 (2) 男女共同参画セミナー事業 (3) 女性のための相談室運営事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨今は、男女共同参画というよりもLGBTが重視されていることから、市としてLGBT向けのセミナー等も企画してもらいたい。 ・男女共同参画の推進という啓発の方向性はわかるが、言葉としては少し色あせてきたような気がする。それに伴い、男女共同参画セミナーの内容が社会の状況に即したものであるか検討する必要がある。 ・男女共同参画とは言えないが、つくば市役所内の女性職員の活躍については、個別施策の指標の一つになるのではないか。 ・男女共同参画について、制度としては少しずつ進んでいるが、継続的に推進しなければならないことだと思う。 ・指標の目標値は単純な人数ではなく、現在つくば市役所において、何名の女性管理職がいるのかということなどについても一つの指標として加えてもらえるとわかりやすい。 | | |
| 提言 | <p>セミナーについては、男女共同参画社会をより広い意味で捉え、共生社会を目指すような内容を工夫されたい。</p> <p>また、一つの指標として、女性の管理職の割合や、育休の取得率等を加え、目標、実績の提示を工夫されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|--|--------|-----|-----|
| 基本施策 | 共生のまちづくりを推進する | | | |
| 個別施策名 | 15 | 国際化の推進 | 主管部 | 市民部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 世界に開かれた「国際都市つくば」にふさわしい、国籍、言語等の違いにとらわれない、すべての市民が安心して生活できる多文化共生のまちづくりを目指す。 また、姉妹都市・友好都市との交流等をとおして、市民の国際理解や国際感覚の醸成を計る。 | | | |
| 個別事業 | (1) 国際交流員・留学生交流員事業 (2) 多文化共生推進事業 (3) 国際化教育支援事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・市の広報紙の外国語訳については、多様な言語で情報を得られるため、引き続き進めてほしい。 ・外国人のための相談室事業については、英語と中国語しかわからないということではなく、どのような言語の場合でも通訳を探して受け入れるという姿勢で行ってほしい。 ・各種学校については、所在がつくば市であるならば、行政として、何らかの支援も含めて調査をしていく必要があるかもしれない。 ・国際交流協会の認知度については、市と協会が連携し、市がある程度深くかかわることで、様々な事業を発信していくといいのではないか。 ・国際化の推進については、言葉が通じなくても受け入れるという体制を全庁的に実施してもらいたい。 | | |
| 提言 | 国際交流協会の活動を積極的にPRし、認知度をあげられたい。 また、つくば市に所在する外国人子弟を対象とした学校に関する補助の在り方については調査を行い、実態に即した支援を行ってほしい。 さらに、外国人に対する相談事業を充実させ、国際化については全庁的に、市全体として対応を進められたい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|---------------|-----|-------|
| 基本施策 | 防災力・防犯力を強化する | | | |
| 個別施策名 | 16 | 災害に強いまちづくりの推進 | 主管部 | 市長公室 |
| | | | 関係部 | 消防本部 |
| | | | | 都市計画部 |
| 個別施策の方向 | 局地的な集中豪雨や土砂災害の発生、大規模地震などから人命と財産を守るため、自助としての建物の耐震化や防災意識の向上に向けた啓発活動の実施、共助としての自主防災活動などの地域での防災体制の向上を図るための活動支援、公助としての消防・救急業務体制や情報伝達手段などの強化に努め、関係機関と連携し、災害に強いまちづくりを推進する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 防災意識啓発事業 (2) 自主防災組織・地域防災活動支援事業 (3) 避難所機能強化事業 (4) 防災設備整備等関連事業 (5) 消防水利整備事業 (6) 住宅用火災警報器設置促進事業 (7) 宅地耐震化推進事業 (8) つくば市耐震改修促進計画に基づく事業 (9) 緊急自動車更新整備事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップは自分に関係のあるものだが、理解されにくいという課題があるため、自助・共助の必要性を市から積極的に働きかけてもらうといい。 ・防災で一番大事なことは、お年寄りや体の弱い方や外国人がいかにして早く非難できるかということであるため、もう少しわかりやすい地域のマップをつくるべきである。 | | |
| 提言 | 個別施策評価調書、予算事業別事務事業評価シートのいずれも記載方法を工夫されたい。また、挙げられている指標名について、目標値が挙げられていない事業、もしくは挙げられている数値の意味を把握しきれない事業が散見されるため、改善されたい。 さらに、木造住宅耐震診断士派遣、木造住宅耐震改修費補助の募集件数の記載方法について工夫されたい。 ハザードマップについては、市民の関心が高い点であると考えられることから、より一層様々な機会を利用して周知していくとともに、有効な使い方を工夫されたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|---------------|-----|-------|
| 基本施策 | 防災力・防犯力を強化する | | | |
| 個別施策名 | 17 | 犯罪に強いまちづくりの推進 | 主管部 | 建設部 |
| | | | 関係部 | 都市計画部 |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 市民一人一人の防犯意識高揚を図るとともに、地域防犯活動の推進や防犯設備の整備、警察等との連携の更なる強化を図る。これら自助、共助、公助の連携により、犯罪に強い、安全で安心な生活環境を実現する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 地域安全活動事業 (2) 明るいまちづくり協議会事業 (3) 防犯施設整備事業 (4) 街路整備事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・どのような成果があったのかということ、個別施策評価調書から読み取ることができない。 ・街灯については、比較的重要な箇所の明かりが消えていることがあり、市民からの通報がないと明かりが消えているということに気が付かないという場合もある。見回り隊等と連携することで、それらの見落としもなくなるのではないか。 ・市民にとって、犯罪に強いまちづくりは生活の根本にかかわることから、今後とも強力に推進してもらいたい。要因を分析し、市に相応しい犯罪抑制を今後検討していくと、犯罪が起こりにくい環境づくりの具体策に結びついてくるのではないか。 | | |
| 提言 | 個別施策評価調書の成果の記述については、よりエビデンスをつけて、読んだ際に内容をすぐに読み取ることのできるような形で具体的に記入されたい。 また、見回り隊、ジョグパトロール隊、自警団、あるいは防犯・環境美化サポーター等に取組の内容をよく理解してもらい、防災意識の向上に貢献されたい。 さらに、公務員宿舎の空き家対策、乗り物の犯罪行為対策等、つくば市に特徴的な犯罪に対応したまちづくりを今後検討し、強化されたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|-----------|-----|-------|
| 基本施策 | 交通環境を整備する | | | |
| 個別施策名 | 18 | 交通移動体系の整備 | 主管部 | 都市計画部 |
| | | | 関係部 | 建設部 |
| | | | | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | つくばエクスプレス各駅等を交通結節点とした公共交通体系の構築を図り、「つくバス」や「つくタク」の運行充実に努める。また、環境負荷の低減や健康にも寄与する自転車のまちづくりを推進するとともに、市外への交通アクセスの利便性向上に努める。 | | | |
| 個別事業 | (1) コミュニティバス「つくバス」運行事業 (2) デマンド型交通「つくタク」運行事業 (3) 上河原崎・中西地区スマートIC設置事業（（仮称）つくばスマートIC） (4) つくばエクスプレス利便性向上事業 (5) 自転車のまちづくり推進事業 (6) 緊急地方道整備事業 (7) 地域公共交通網形成計画進行管理業務 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故防止対策について、個人損害賠償保険加入の義務化も検討すべきではないか。 ・高齢社会と輸送、移動については、どこまでが行政の支援で、どこから先は自分自身で行うことになるのか、将来、車の運転をしなくなった際のことを考えると非常に深刻な問題である。 将来的には高齢福祉対策と一体化した対策を推進し、行政経費がかからないような方法を模索していくことが大事だと思う。 ・個別事業について分析され、対応策を考えているということがよくわかる質疑、応答であったが、個別施策評価調書の記述からそのことを読み取ることができなかったことが残念である。 ・アンケート調査等も踏まえ、さまざまな方策を考えているという点は非常に良かった。 ・それぞれよく対応しており、評価は「B+」という印象である。 | | |
| 提言 | <p>荃崎、筑波地区では高齢化の進展が非常に急速に進んでおり、その中における公共交通網のあり方については、引き続き積極的に対応されたい。</p> <p>財政の出動等の難しい部分はあると思うが、例えばNPO、あるいは他の部局との連携を図りつつ積極的に対応されたい。</p> <p>また、自転車通行の安全性についても引き続き整備されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|--|--------|-----|-------|
| 基本施策 | 魅力ある居住・交流環境を創出する | | | |
| 個別施策名 | 19 | 住環境の整備 | 主管部 | 都市計画部 |
| | | | 関係部 | 市民部 |
| | | | | 生活環境部 |
| | | | | 建設部 |
| 個別施策の方向 | つくばの特性をいかした緑豊かな景観の保全を図り、だれもが安心して生活し、快適に住み続けることのできる質の高い居住環境の整備を図る。また、つくばエクスプレス沿線地区においては、都市機能と自然、知的な環境が調和した魅力的なまちづくりを推進する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 景観緑地のあるまちづくり推進事業 (2) 景観形成事業 (3) 環境美化推進事業 (4) 花と緑の美化活動事業 (5) つくばエクスプレス沿線まちづくり事業 (6) 空き家等の適正管理及び有効活用事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家及び所有者不明の土地については、早期の対応が必要であり、同じ問題として取り組まれない。 ・ 環境美化推進事業等に参加している方を中心として、さらに市民に広がっていくような意識が大切である。環境美化に関する事業の展開について、広報活動を行ってもいいのではないか。 ・ 各事業については、市民が参加する形をとっており、参加している人や周囲の満足度もわかりやすく、一つの市の施策の進め方のモデルである。その一方で、活動内容がマンネリ化しないように、事業の拡大を進められたい。 | | |
| 提言 | <p>空き家が日本全国で大きな問題になっている中、有効な空き家対策について、思いつく限りの方策を考えて積極的に取り組まれない。</p> <p>また、所有者が不明の土地についても、住環境整備という観点から対応が必要と思われることから、所管課と連携して対策を練られたい。</p> <p>環境美化運動については、市民の満足度調査等を踏まえると、非常に満足度も高く、向上しているので一定の成果が見られるが、場合によっては、参加者がある程度限定されてきている可能性もある。より一層の普及拡大という点から、参加者をふやす努力を今後も進められたい。</p> <p>施策全体として十分事業は進行していると思われるが、より一層創意工夫を踏まえて遂行されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|--|--------------|-----|-------|
| 基本施策 | 魅力ある居住・交流環境を創出する | | | |
| 個別施策名 | 20 | つくば駅周辺地区の活性化 | 主管部 | 都市計画部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | つくば駅周辺は、つくばの玄関口や広域的な商業・業務拠点として、にぎわいのある都市空間の形成を図る。また、景観誘導の実施などにより、特徴ある良好な景観の保全・育成を推進する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 公共空間活用推進事業 (2) 中心市街地再生事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・つくば市中心市街地まちづくりビジョンと連動をしながらクレオ再生の方針を考えていくべきではないか。 ・中心市街地再生事業については、市民の意見を取り入れて進めていくということを、具体的に、さらに強調されたい。 ・つくば駅周辺地区の活性化については、規制・誘導を図ったエリアを成果指標として挙げているが、果たして、つくば駅周辺地区の活性化という事業に対してこの指標が妥当かどうか再検討すべきではないか。 ・急いではいけないが、急がなければならない。民間の経済ベースだけで考えられてしまうと、すぐに状況が変わってしまう可能性があることから、行政としての強力なインパクトを与え続けていく必要がある。 ・市民にわかりやすい形で事業が進められているということが見えなければならない。 ・市民、あるいは有識者の意見を取り入れるということを多角的に捉えてつくり上げていけば、つくばには多くの資源があるはずである。 | | |
| 提言 | 拙速なプランニングはまずいが、土地、まちづくりに関する施策を立てるときには市場原理ということも抜きにしては語れない。今後そのバランスを考慮したまちづくりプランを立てて、かつそれを具体的な方法論として工程にのせていくことが、今問われている。そこは市がハンドリングする仕事として検討されたい。 その際に、できたものに対して意見を問うのではなく、プランニングの段階から市民の意見を積極的に取り入れ、スピード感を持って今後検討されたい。 さらに、民間の活力を引き続き生かして進められたい。 | | |

| | | | | |
|---------|---|---------|-----|-------|
| 基本施策 | 低炭素化に貢献する | | | |
| 個別施策名 | 21 | 低炭素化の推進 | 主管部 | 生活環境部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 「環境モデル都市」を推進する自治体として、次世代につなぐ低炭素社会づくりのモデルとして「つくば環境スタイル”SMILe”」プロジェクトを進め、地域全体の低炭素化を実現する。 | | | |
| 個別事業 | (1) コミュニティ型低炭素モデル街区整備事業 (2) 環境モデル都市アクションプラン進行管理事業 (3) EV等普及促進事業 (4) 低炭素な移動手段への転換促進事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・市あるいは市民の役割を明確にしなければならないのではないか。 ・市民満足度が低いということは、市民が低炭素社会と聞いてもよくわからないということではないか。さらに、市の様々な取組み内容がイメージできないというところに課題があるのではないか。 ・低炭素化の推進は市民に見えづらい施策であるが、昨今の気象状況等を考えると、将来的に重要な課題になると思う。 ・市民には、”SMILe”という計画が浸透していないように思う。 ・低炭素化のメリットを各市民レベルで訴えて、節電やカーシェアリンク、自転車を使うなど、身近な取組から始まってもいいのではないか。週毎でもそのような運動を展開することで、少しでも低炭素に向けた動機づけになるのではないだろうか。 | | |
| 提言 | <p>低炭素化の推進については、非常に成果が見えにくいですが、極めて重要な取り組みであるということから、より一層つくば市が先導役となり、その成果も含めて市民にわかりやすく、また、市民が参加することで取り組みが推進できているということを実感できるような施策を進められたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|---|---------|-----|-------|
| 基本施策 | 自然環境を保全・活用する | | | |
| 個別施策名 | 22 | 環境意識の啓発 | 主管部 | 生活環境部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | つくば市は筑波山を有し、歴史や気候風土に育まれた集落や里山の景観が形成されている。これらの特色をいかし、つくばに誇りと愛着を育むよう環境教育を推進するとともに、市民と協働による取組を推進し、市全体の環境意識の啓発に努める。 | | | |
| 個別事業 | (1) つくば環境スタイルサポーターズ事業 (2) (仮称) つくば環境スタイルセンター事業 (3) 筑波山自然環境教育事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・つくば環境スタイルサポーターズ事業については、イベントの枠がすぐに埋まってしまうイメージがあり、参加できないことが多い。順調に事業が進んでいるということもあることから、参加枠拡大等の改善を検討してもらいたい。 ・中心市街地のみが開発されていくということではなく、周辺市街地と中心市街地をどう連携させていくかという視点も環境という問題を考えるときには大切ではないか。 ・若いときに環境の大切さを十分理解してもらうためには、教育現場との連携が非常に大切であることから、引き続き進めてもらいたい。 ・低炭素化の推進、つくばスタイル科の充実とも関連していることから、施策の横の連携も考えてもらえると相互に効果が出ると思う。 ・環境スタイルサポーターズは、どのようにすれば環境意識を持った会員に継続して活動してもらえるかというところにも注力してもらいたい。 | | |
| 提言 | 環境スタイルサポーターズの会員数が順調に伸びていることは非常に喜ばしいことだが、自主的な活動をいかに推進していくか、また、自主的なサポーターズの増加について、今後注意を払われたい。 環境意識の啓発事業で満足度がいまひとつ伸び悩んでいる理由もいろいろあると思うが、今後市民の満足度を上げるための方策を考えられたい。 筑波山自然環境教育観察会をはじめとしてアウトドアなイベントが多いが、つくばの特性を考えて、中心市街地と周辺市街地の均衡がとれた環境の維持発展についても取り組まれたい。 また、教育等の他の施策と連携して推進していくことで、より効果を高められたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|----------|-----|-------|
| 基本施策 | 自然環境を保全・活用する | | | |
| 個別施策名 | 23 | 資源の保全・活用 | 主管部 | 経済部 |
| | | | 関係部 | 生活環境部 |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | つくば市の恵まれた自然環境を保全・活用するとともに、一般廃棄物の減量や資源化を推進し、循環型社会の構築を目指す。 | | | |
| 個別事業 | (1) 身近なみどり整備推進事業 (2) 林道整備事業 (3) 筑波山市有林整備事業 (4) 環境にやさしい農業推進事業 (5) リサイクルセンター整備事業 (6) つくば市特産農産物廃棄物適正処理推進事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | |
|---------|---|---|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・屋敷林の適正な保全、管理について、抜本的なことを研究していく必要があるように思う。そのようなことを目標に掲げて事業を少しでも進めていくことが評価に値していくことではないか。 また、他自治体の状況について調査が必要ではないか。 ・各個別事業については、どれも継続的な事業であるが、徐々に改善を図っていくことが必要である。 ・全体として事業は着実に実施されているが、予算事業別事務事業評価シートでの目標の持ち方や、それを反映する指標について工夫の余地があるのではないか。 | |
| 提言 | <p>非常に難しい事業であろうと推察はできるが、本来行政評価の目的から踏まえると、PDCAサイクルを回すという観点から、自己評価の記述あるいは適切な指標の選択にさらなる工夫をされたい。様々な制約があることは今回の説明でわかったが、一方で、取り組んでいる成果が見えにくくなってしまっている部分が生じているのではないか。ぜひ、指標の立て方、さらに自己評価の記述を工夫されたい。</p> <p>緑の整備、推進という観点から調査研究や安全対策といった新しい対策も積極的に取り組まされたい。芝の回収の周知も含めて、より積極的な形に着手されたい。</p> | |

| | | | | |
|---------|---|--------|-----|-----|
| 基本施策 | 産業競争力を高める | | | |
| 個別施策名 | 24 | 商工業の育成 | 主管部 | 経済部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | つくば駅周辺のにぎわいを創出して商業拠点機能の強化を図るとともに、地域の商店街の活性化を支援する。また、科学技術をはじめとした資源をいかし工業の振興を図る。 | | | |
| 個別事業 | (1) 商工団体等支援事業 (2) 中小企業者経営支援事業 (3) つくば産業創出支援事業 (4) 創業支援事業 (5) 企業立地推進事業 (6) ハイテクパーク整備事業 (7) 技術開発支援事業 (8) 雇用促進対策事業 (9) 若者地域定着化促進事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ支援については県内一の新規創業としているが、比べる対象としては他県も含め、目標を高く持ってほしい。 ・市としてまとめてベンチャー企業を支援しているというが見えにくい。市、商工会、研究支援センター等を含めたサービス窓口の一本化になっていない。 ・高い成果をあげている個別事業については、さらに高い目標を設定してもいいのではないか。 ・既存の中小企業では、農業と同様に後継者不足による廃業ということが考えられる。既存の中小企業とベンチャー企業とを結び付ける方法も今後は必要になるかと思われる。 | | |
| 提言 | <p>自己評価と適正な事業の成果がわかるような指標の立て方になっているか、全般的により一層の工夫を実施されたい。</p> <p>また、ベンチャー企業の支援、新規創業支援については、研究所や大学が多数立地している等というつくば市のメリットを考えると、さらに高い水準に目標を設定してもいいのではないか。今の達成状況に満足することなく、高い水準を目指されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|---|-------|-----|-----|
| 基本施策 | 産業競争力を高める | | | |
| 個別施策名 | 25 | 農業の振興 | 主管部 | 経済部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 農業の将来を担う人材の育成をはじめ、地産地消の推進や都市農村交流の促進等により、農村環境の保全及び農業の活性化を図る。 | | | |
| 個別事業 | (1) 耕作放棄地の活用 (2) 地産地消推進事業 (3) 都市農村交流事業 (4) 農業経営対策事業（担い手育成総合支援事業） (5) つくば芝振興対策事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の高齢化、後継者不足については全国的な問題があるが、喫緊の課題であることから、調査、研究が必要である。 ・ 農作物の価格等、つくばモデルのようなものをつくりあげingことを目標に掲げてはどうか。 ・ 農作物の付加価値に関することとして、市内の飲食店で地産地消を売りにしている店舗とのネットワーク構築を今後検討してはどうか。 ・ つくば市として農産物の生産量、売上げがどれくらいあり、どれだけ増やしたいのか、また、後継者についても、何人不足していて、何人増やしたいのかということが見えてこない。 ・ 予算事業別事務事業評価シートについては、適切な指標の設定が必要である。 | | |
| 提言 | 事業に対して適切な指標が設定されているかという点については、抜本的に見直してもらう必要がある。その中で、農業の振興はつくば市にとっても非常に重要であり、農業のつくばモデルの構築を目指してもらいたいときに、つくば市がどのように農業振興を進めようとしているのか予算事業別事務事業評価シート、個別評価調書から見るができない。 一方で、農業の振興は農業政策課だけで終わる話ではなく、例えば学校給食、地産地消等、他部署とも連携し、調査研究して、つくばブランドの育成といった今後打って出る形で取り組まれたい。 その関連で、つくば市の農業として、後継者不足をどうしたいのか、農業の方向性について、どちらに何を持っていきたいのかわかるような指標を出されたい。 | | |

| | | | | |
|---------|--|---------|-----|-------------|
| 基本施策 | 科学技術をまちづくりにいかす | | | |
| 個別施策名 | 26 | 科学技術の振興 | 主管部 | 政策イノベーション部 |
| | | | 関係部 | - - - |
| 個別施策の方向 | つくばの世界的な知的集積の強みを活かし、国際戦略総合特区等の科学技術の振興を通じて、イノベーション創出を促進し、経済活性化や社会的課題の解決に貢献する。 | | | |
| 個別事業 | (1) 国際戦略総合特区推進事業 (2) 市内大学・研究機関等との連携事業 (3) 次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業（科学教育推進事業） | | | |

| 個別施策の評価 | |
|---------|--|
| 評価 | A 施策について優れた成果が確認できることから、推進させるべきであると判断される。 |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・まさにつくばの至宝的的事业かと思う。努力したことがよくわかるが、具体的な成果のアピールも必要ではないか。 ・市民との関係からすると、科学技術の振興による成果が市民にどのように還元されていくのかということを整理したほうがいい。 ・国際戦略総合特区といった仕組みでは、国や県による補助金や支援が終わった後の市のサポートについて、検討してもらいたい。 ・指標が毎年変わっているため、全体を見た際に、施策が順調に進捗しているのか、進捗していないのかわかりにくい。科学技術の振興というつくば市にとって非常に特徴のある施策であるがゆえに、全体の評価のあり方について検討を行ってほしい。 |
| 提言 | <p>全体的に科学技術の振興に積極的に取り組んでいるが、それを個別施策評価調書に反映できていないため、表記を検討されたい。</p> <p>また、個別施策評価調書の中で指摘されているが、科学技術振興というと、大学や研究機関中心になりがちであるがために、市民への還元については、より市民にわかりやすく伝わるような工夫を一層進められたい。例えば、大学や研究所との基本締結も市民にとってもメリットがあるということがわかると、基本協定を結ぶ意義への理解も促進されるのではないかと。</p> <p>さらに、市民との関係としては、市民参加型の体験型科学事業等についても積極的に進められたい。</p> |

| | | | | |
|---------|--|--------------|-----|------------|
| 基本施策 | 科学技術をまちづくりにいかす | | | |
| 個別施策名 | 27 | ロボットの街つくばの推進 | 主管部 | 政策イノベーション部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | モビリティロボット実験特区や国際戦略総合特区等の活用を通じて、ロボットの活用促進や人材育成、ロボットを活用したまちづくりを行い、超高齢社会及び低炭素社会への対応、観光等の地域活性化に貢献する。 | | | |
| 個別事業 | (1) ロボットの街つくば推進事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査のつくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じることがあるかという質問に、半分以上の市民が「感じていない」と答える。本当に必要としている人が恩恵を感じられるような施策こそ、行政が携わっていく分野でもあるかと思う。 ・モビリティロボットについては、楽しい部分もあることから、工程のようなものがある程度イメージされ、市民に示してもらえると、興味もわくのではないかと思う。 ・何を実施したかということではなく、実施したことで、目標に対して何ができてきたかということが重要である。ロボットにしても、市民生活に対して何が恩恵であり、何が問題か見えてこなければならない。場合によっては、違うロボットも近道かもしれないというような、柔軟な考え方が必要ではないだろうか。 | | |
| 提言 | <p>「ロボットの街つくばの推進」事業というからには、実験だけでなく、市民に成果がわかりやすく見えるような形で、工程が示され、成果が市民生活にどう役立つのかというようなことを考えて事業を推進されたい。そのときに、セグウェイだけでなく、高齢者や障害者による利用、観光といったようなある程度ターゲットを絞った形でロボットを活用する、社会的に実装するというような観点で進められたい。</p> <p>事業が停滞しているという意味ではないが、事業としては推進する方向性を十分見直して、目標に向かって一層の推進を目指されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|--|-------|-----|-----|
| 基本施策 | つくばの魅力を発信する | | | |
| 個別施策名 | 28 | 観光の振興 | 主管部 | 経済部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 自然、歴史、文化や、研究・教育機関など数多くの観光資源を活用することにより、つくばならではの空間とストーリーを創出し、観光地としての魅力向上を図り、グローバルな視点から国内外の誘客の拡大に向けた取組を進める。 | | | |
| 個別事業 | (1) まつりつくば事業 (2) つくばフェスティバル事業 (3) つくば物語事業 (4) 筑波山梅林及びその周辺整備事業 (5) 筑波山麓整備事業 (6) サイエンスツアー事業 (7) 観光宣伝事業 (8) ブランド推進事業 (9) 筑波山地域ジオパーク推進事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・まつりつくばの目的、位置付けをあらためて検討する必要があるのではないか。 ・サイエンスツアーの利用者数の減少について、原因の分析が必要ではないか。 ・各種イベントの経済効果が示されてもいいのではないか。 ・個別施策の方向の中で、「自然、歴史、文化、研究・教育機関」とあげられているが、現在の個別事業だけでは、観光として人を呼べないと思う。違うキーワードでの観光振興を考える必要があるのではないか。 ・つくばは万葉の時代から登場しており、歴史資源を積極的に売り出すべきではないかという学生の意見もある。 | | |
| 提言 | <p>既存の観光資源に加えて、文化、芸術、スポーツ、歴史等の新しい視点の観光資源の開発に積極的に取り組まれない。</p> <p>また、インバウンドを狙っているのであれば、外国人観光客に対してどのようなサービスが展開できるのか早急に考え、着手する必要があるのではないか。</p> <p>観光資源、観光施策に対しては、その成果が経済効果、観光客数等のより見える形で考えられたい。</p> <p>他の事業、部署との有機的な連携を今後さらに進展されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|---|---------------|-----|------|
| 基本施策 | つくばの魅力を発信する | | | |
| 個別施策名 | 29 | シティプロモーションの推進 | 主管部 | 市長公室 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | つくば市には、筑波山に代表される自然や歴史、世界に誇る科学技術といった魅力ある資源が豊富に存在する。これらの魅力を発信するため、つくば市全体が主体となり“オールつくば”でシティ・プロモーションを推進し、誘客および定住の促進を図る。 | | | |
| 個別事業 | (1) シティプロモーション事業 (2) 移住・定住促進事業 (3) 定住促進PR業務 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・市はどのような人の移住を求めているのか、効果的な人なのかということフィードバックする意味でも、移住してきた方にアンケート調査を行うといいのではないかと。 ・魅力を発信することは大切だが、その魅力を発信していく目的、目標がどこにあるのか。移住・定住を促進しているが、人口が増えるということは必要なことなのか。そのような観点でプロモーションを進めてもらいたい。 ・シティプロモーションの推進については、誘客という観光部分のPRも含まれているはずだが、来客数や売り上げについて、実際の観光促進にどの程度結びついているか成果指標として見えてきていないように見受けられる。 ・他のTX沿線都市と連携し、つくばエクスプレス沿線全体のプロモーションということを考えてほしい。 | | |
| 提言 | <p>シティプロモーションの効果について、アンケート調査等で成果を確かめることを積極的に推進されたい。単にシティプロモーションを実施するだけということではなく、その先を見据えた形で施策を考えられたい。そのためには、他部署との連携のもとに、シティプロモーションを進められたい。</p> <p>また、大きなテーマにはなるが、「つくばの魅力」とはなにか、関係人口はどれくらいを目標におきたいのかといったことも踏まえて、ぜひ魅力あるつくばの発信及び勧誘を推進されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---------|---|---------|-----|-----|
| 基本施策 | 自立した行政運営を推進する | | | |
| 個別施策名 | 30 | 行政改革の推進 | 主管部 | 総務部 |
| | | | 関係部 | - |
| | | | | - |
| 個別施策の方向 | 市民の需要に的確に対応できるよう、行政機能の強化を図るとともに、効率的・効果的な行政運営に努める。 | | | |
| 個別事業 | (1) 職員研修事業 (2) 公共施設マネジメント推進事業 (3) 総務に関する事業 (4) 働き方改革推進事業 | | | |

| 個別施策の評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| 評価 | B | 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。 | |
| 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体として前年度の事業の見直しや窓口業務等も改善されて大変結構だと思う。 ・RPA、ロボット化によって事務量を減らすということも検討してみてもどうか。 ・働き方改革推進については、部署ごとに1人当たりの時間外が前年度と比較してどれだけ減ったかということが大切である。 ・働き方改革推進は時間外勤務だけの話ではなく、介護や育児休暇取得の推進も実施しているのであれば、その推移についても積極的に記載してもらいたい。 ・職員の有給休暇の取得を促進されたい。 | | |
| 提言 | PDCAサイクルということが、適正に機能していることが見受けられる。一方で、働き方改革を推進していくためには、より精緻に現在の業務量について、人件費の動向等を他の部署と連携する形で総括的に把握して推進されたい。 また、介護や育児支援も併せて、より見える化を進められたい。 さらに、行政改革の推進という観点から、窓口のAI化等、他の部署、他の計画とも連携し、積極的に施策を推進されたい。 | | |

II 市民参加取組状況の中間報告について

1 背景・経緯

つくば市では、平成 30 年 3 月に「つくば市市民参加推進に関する指針」を策定し、市政への市民参加を促進するため、市民参加を「共有、理解」、「企画・立案、計画」、「実行」、「評価・検証」の 4 段階で進めるとともに、つくば市の附属機関の委員及び懇談会等の構成員の一部に市民が参画することとした。

本指針では、市民参加推進の取組が効果的に実施されているかどうかを、懇談会にて検証し公表することとしており、今回は、今年度のつくば市における取組の中間報告について、懇談会としての意見を付すものである。

2 中間報告の対象

中間報告の対象は、平成 30 年 4 月 1 日から 12 月 12 日までに「つくば市市民参加推進に関する指針」に沿って実施された市政への市民参加の取組とする。

3 中間報告の内容について

平成 31 年（2019 年）1 月 29 日（火）に開催された第 3 回懇談会において、市政への市民参加推進を所管する政策イノベーション部企画経営課から、別添の参考資料により平成 30 年度つくば市市民参加推進に関する取組実施状況の報告を受けた。主な内容は以下の通り。

<取組概要>

- 4 月 市民参加推進に関する職員向け説明会
- 5 月 無作為抽出による市民委員等候補者名簿の登録開始
- 11 月 市民参加に関するアンケート調査実施（審議会等の市民委員等）
- 12 月 審議会等における市民の参加に関するアンケート調査実施（所管課等）
- 通年 市民委員の募集に関する市ホームページの情報更新

<主な成果>

市長公約事業のロードマップにおける KPI を達成したほか、2 件の審議会等で市民を委員に加えるために条例の改正が行われた。

審議会等の市民委員の約 95%が自分の意見を言うことができた、十分言うことができたと感じている。（市民参加に関するアンケート調査。）

約 71%の審議会等が委員の意見を計画等の策定や評価に反映した。（審議会等における市民の参加に関するアンケート調査。）

＜主な課題＞

市民参加を今後より一層推進していくためには、市民への情報発信を工夫することが重要である。また、審議会等における市民委員の役割等がわかりにくいという点や市民参加による結果や成果が市民から見えにくいという点も主な課題として挙げられる。

＜今後の取組＞

審議会等においては、市民参加の効果を最大限発揮できるように、市民委員への審議内容や関連事業に関する事前説明を徹底するとともに、必要に応じて職員との意見交換や理解を深めるような取組も進めていく。

さらに、企画経営課において毎年度市民参加の取組状況の庁内調査を実施し、その結果を市ホームページ及び広報紙に掲載することで、市民が市民参加による結果や成果に関する情報を得るための環境を整える。

4 懇談会による中間報告への意見について

今年度の取組として、市長公約ロードマップにおける KPI を達成し、2 件の審議会等で市民を委員に加えるために条例の改正が行われるなど、市民参加推進の取組が着実に進められていると評価できる。参加する市民委員が少しずつ増えていくことで、一人でも多くの市民が市政に関心を深め、参加するきっかけになっていくことが期待される。

一方で、パブリックコメント手続きの意見提出者数が少ないこと、各ワークショップに同じ人が参加していることなどから、より幅広い市民の参加を進めることが必要である。その観点から、市民が市政に参加するためのきっかけとして、無作為抽出による市民委員等候補者名簿の利用が有効であり、今年度、名簿から任命等をされた市民委員等の実績が中間報告の時点で一名であることから、より積極的な名簿の活用が求められる。

また、市民に役立つサービスが展開されているか、市民の評価が入ることにより、行政の改善も図られていくことが考えられるため、「評価、検証」段階での市民参加の取組を増やしていくことが求められる。

市民参加推進の取組は始まったばかりであり、これからの行政の対応の在り方が一層重要となる。市民参加が行政の自己満足として落ち着いてしまうことがないよう、上述の改善点に留まらず、行政自らが市民参加の理念の具体化を常に考え、積極的に取組を進めていくことが重要となる。過渡的な状況の中で、市民、行政ともに市民参加をよりよい方向に進めていくために積極的な意識と姿勢が求められる。

別添 参考資料

(1) 各部等の事業における市民参加の実施状況（平成30年12月12日時点）

・主な実施手法

（単位：件）

| | 市長公室 | 総務部 | 政策イノベーション部 | 市民部 | こども部 | 保健福祉部 | 経済部 | 都市計画部 | 建設部 | 生活環境部 | 教育局 | 合計 |
|---------------------|------|-----|------------|-----|------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|----|
| 審議会等 | | 1 | 4 | 2 | | 3 | 1 | | | | 3 | 14 |
| 公聴会、住民説明会 | | | | | 1 | | | 9 | | 1 | | 11 |
| シンポジウム・フォーラム | | | | 3 | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 7 |
| アイデアソン | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ワークショップ | | | 2 | 1 | 1 | | | 3 | | | | 7 |
| 出前講座 | 1 | | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 15 |
| タウンミーティング | 3 | | | 1 | | | | | | | | 4 |
| パブリックコメント手続き | | | 2 | | | | 1 | 2 | | | | 5 |
| アンケート調査 | | | | 1 | 2 | 3 | | 3 | | | 2 | 11 |
| 意見、作文、イラスト、アイデア等の募集 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| その他 | 1 | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | 1 | 6 |
| 合計 | 5 | 1 | 15 | 10 | 5 | 8 | 6 | 21 | 1 | 1 | 10 | 83 |

・市民参加の4段階

（単位：件）

| | 市長公室 | 総務部 | 政策イノベーション部 | 市民部 | こども部 | 保健福祉部 | 経済部 | 都市計画部 | 建設部 | 生活環境部 | 教育局 | 合計 |
|----------|------|-----|------------|-----|------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|----|
| 共有、理解 | 5 | | 4 | 6 | 3 | 2 | 4 | 14 | 1 | 1 | 3 | 43 |
| 企画・立案、計画 | | 1 | 7 | 1 | 1 | 2 | 2 | 6 | | | 5 | 25 |
| 実行 | | | 1 | 1 | | 3 | | 1 | | | 1 | 7 |
| 評価、検証 | | | 3 | 2 | 1 | 1 | | | | | 1 | 8 |
| 合計 | 5 | 1 | 15 | 10 | 5 | 8 | 6 | 21 | 1 | 1 | 10 | 83 |

(2) つくば市審議会等

| | |
|-------------------------|-----|
| つくば市審議会等総数 | 95件 |
| 市民委員の参加が可能な審議会等数 | 39件 |
| 平成30年度に開催した審議会等数 | 79件 |
| 平成30年度が委員の改選時期に当たる審議会等数 | 14件 |
| 平成30年度に市民委員が参加した審議会等数 | 14件 |
| 市民委員が参加している審議会等総数 | 26件 |

(3) 無作為抽出による委員等候補者の登録

| | |
|------------|---|
| 無作為抽出者数 | 1,000人 |
| 名簿登録同意者数 | 102人（男性50人、女性52人） ※10代 … 6人 20代 … 6人 30代 … 18人 40代 … 27人 50代 … 23人 60代 … 6人 70代 … 6人 |
| 審議会等への参加人数 | 1人 |

「無作為抽出による委員等候補者登録制度」は、住民基本台帳から無作為に抽出した1,000人に「市民委員等候補者名簿」登録の依頼文書を送付し、名簿への登録に同意いただいた方の中から、審議会等の委員就任を依頼するというもの。

市政への市民参加に関するアンケート集計結果

1 調査期間

平成30年11月28日～平成30年12月10日

2 調査対象

平成30年度に「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員並びに委員等候補者の登録に関する要綱」に沿って任命又は選任をされた市民委員等55名

3 調査方法

郵送配布・回収

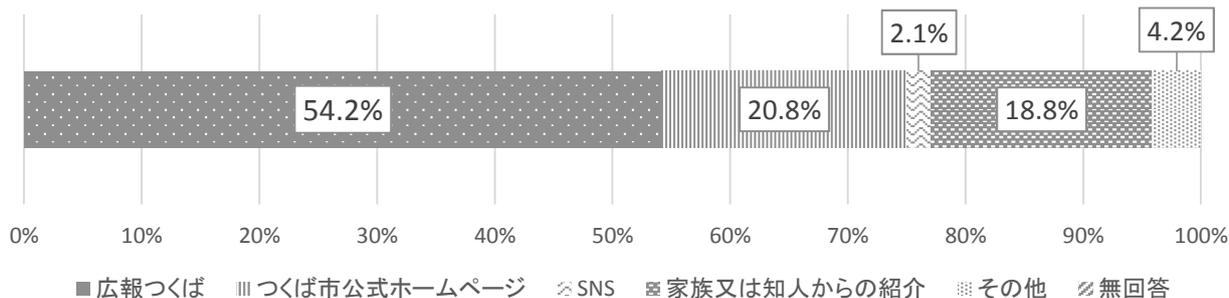
4 回収状況

発送数 55人
回収数 41人
回収率 74.5%

5 集計結果

(1) 市民委員の募集について、以下のうちどれで知りましたか。〔当てはまるもの全てに○〕

| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|--------------|---------|--------|
| 広報つくば | 26 | 54.2% |
| つくば市公式ホームページ | 10 | 20.8% |
| SNS | 1 | 2.1% |
| 家族又は知人からの紹介 | 9 | 18.8% |
| その他 | 2 | 4.2% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 48 | 100.0% |

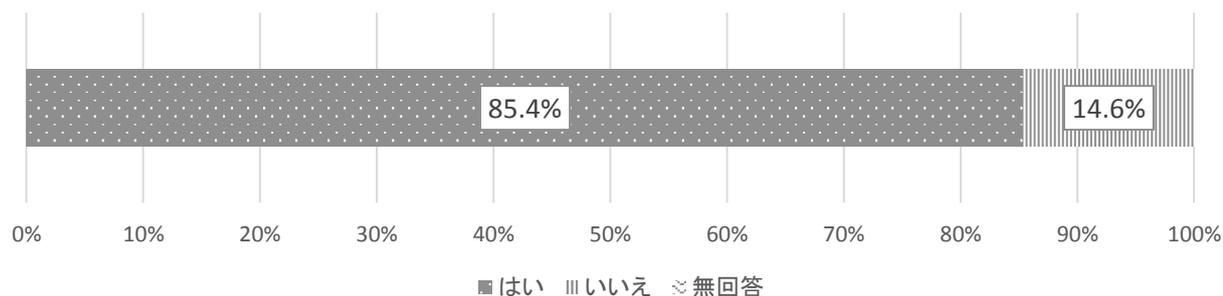


広報つくばを見て市民委員の募集を知る人が最も多いことから、今後も広報を使った周知が効果的であると考えます。

一方で、広報を見ない人や見られない人（在勤、在学等）のためにも、市ホームページ等に募集情報を掲載する必要があります。また、情報の積極的な発信という観点から、「市民委員の募集」という取組みに関する周知も定期的に行う必要があります。

(2) 市民委員の募集要項はわかりやすかったですか。〔〇は一つ〕

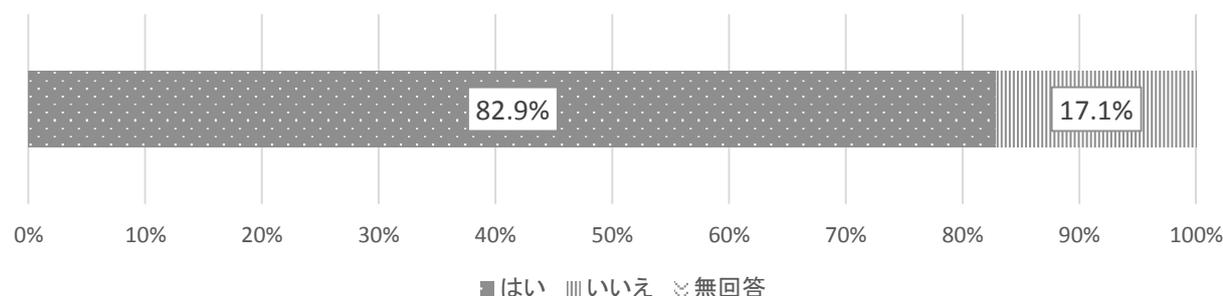
| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 35 | 85.4% |
| いいえ | 6 | 14.6% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



何を審議するか、市民委員に何を期待するかわかりにくかったという御意見と、募集要項において使われている表現がわかりにくいという御意見があった。
募集要項は誰もが読んですぐに理解できる表現で作成し、市民委員の役割を明確に示すことで、市民が応募する際の疑問や不明点を減らす。

(3) 会議内容について、担当職員から事前説明はありましたか。〔〇は一つ〕

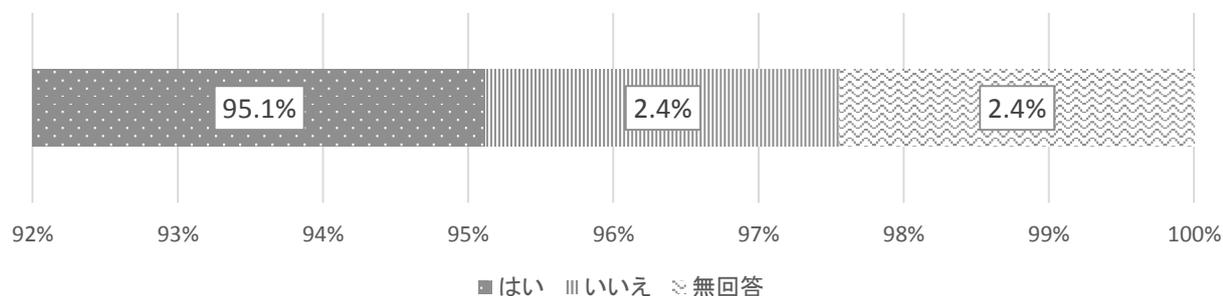
| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 34 | 82.9% |
| いいえ | 7 | 17.1% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



事前説明の有無については、「はい」と答えた方の中からも、審議内容や市民委員の役割に関する説明が十分ではなかったという御意見があった。
開催回数の少ない審議会等や、一度に扱う案件が多い審議会等においては、審議内容や市民委員の役割の説明はもちろんのこと、必要に応じて事業等に関する事前の勉強会等の開催を検討する必要がある。

(4) 審議会での職員の説明はわかりやすかったですか。〔〇は一つ〕

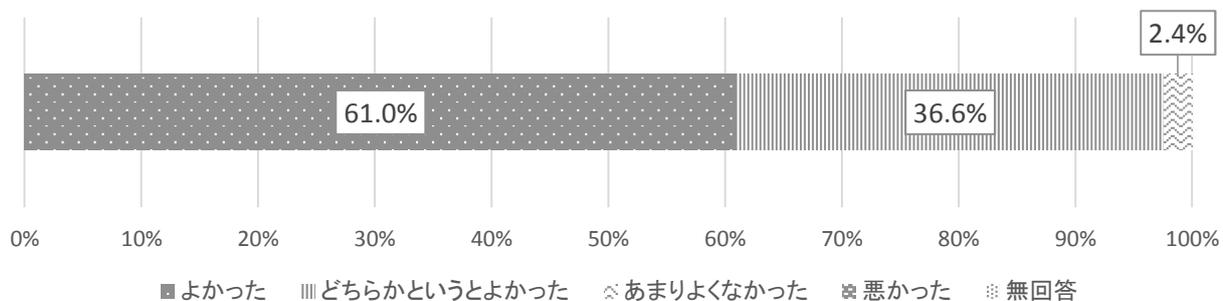
| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 39 | 95.1% |
| いいえ | 1 | 2.4% |
| 無回答 | 1 | 2.4% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



わかりやすかったという意見が多数である。わかりやすい説明、見やすい資料づくりを引き続き実施する。
 なお、「いいえ」については、わかりにくいというよりも審議する事案が多すぎるという御意見であったため、一度の会議で扱う審議案件の量について各審議会等の所管課等は検討する必要がある。

(5) 審議会等の雰囲気はいかがでしたか。〔〇は一つ〕

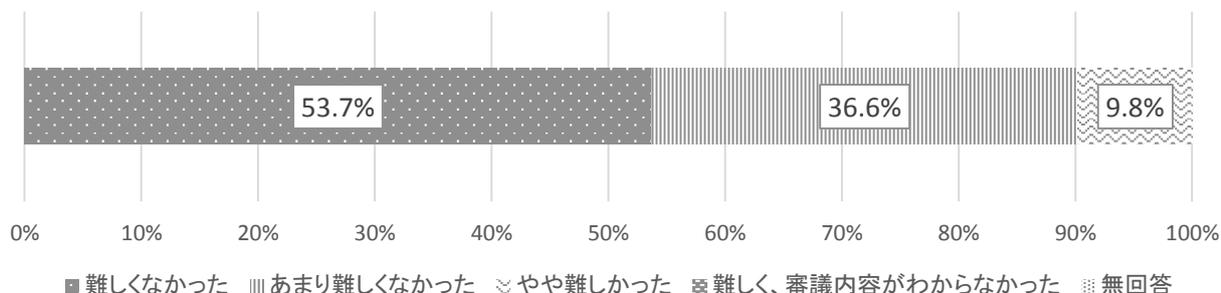
| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|-------------|---------|--------|
| よかった | 25 | 61.0% |
| どちらかというよかった | 15 | 36.6% |
| あまりよくなかった | 1 | 2.4% |
| 悪かった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



「よかった」、「どちらかというよかった」という割合が多いが、「市民委員と有識者との間に距離を感じた、”オマケ”感が強い感じがした」という御意見があった。審議会全体として、初めて委員になった人でも気軽に発言できるような雰囲気をつくる必要がある。
 また、委員の役割を明確にし、それぞれの立場で自由に発言できる環境づくりを進めていく。

(6) 審議内容は難しくありませんでしたか。〔〇は一つ〕

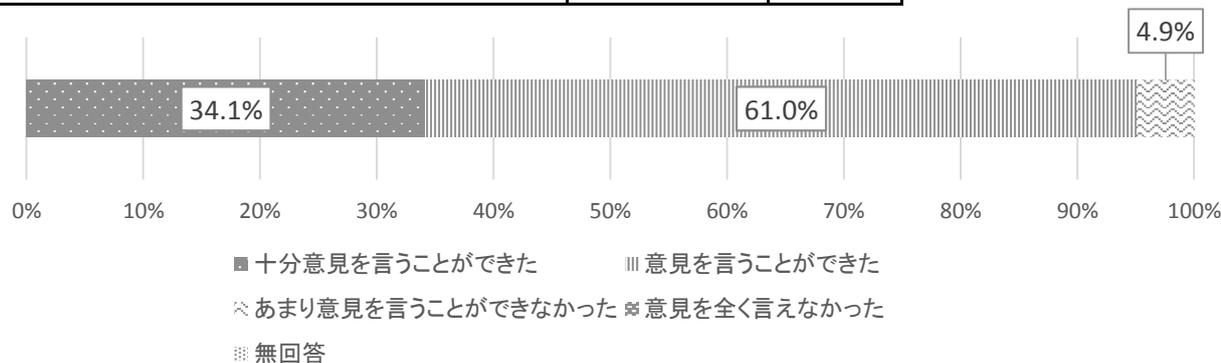
| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|------------------|---------|--------|
| 難しくなかった | 22 | 53.7% |
| あまり難しくなかった | 15 | 36.6% |
| やや難しかった | 4 | 9.8% |
| 難しく、審議内容がわからなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



審議内容がわからないとまではいかずとも、「やや難しかった」という回答があることから、必要に応じて勉強会等の理解を深めるような取組も進めていく必要がある。また、事案の内容が多く、事業を理解できないという御意見もあるため、審議会等の中で所管する事業の「共有、理解」から進めるよう庁内に周知する。

(7) ご自身の意見を言うことができましたか。〔〇は一つ〕

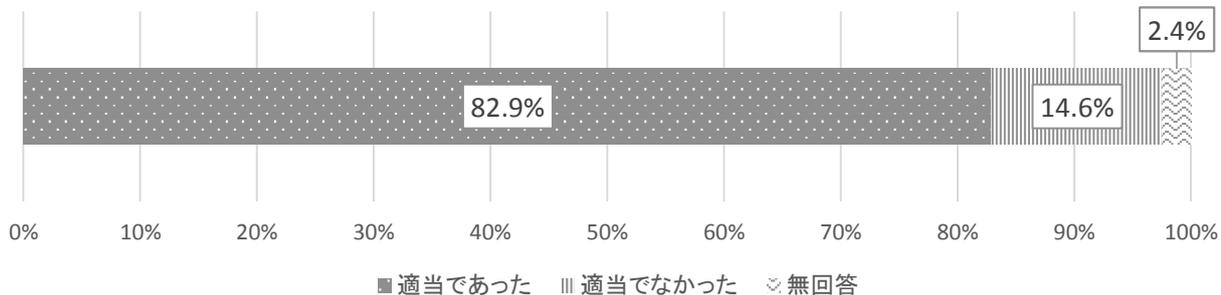
| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|-------------------|---------|--------|
| 十分意見を言うことができた | 14 | 34.1% |
| 意見を言うことができた | 25 | 61.0% |
| あまり意見を言うことができなかった | 2 | 4.9% |
| 意見を全く言えなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



「意見を言うことができた」という回答が全体として多い。「十分意見を言うことができた」が少ない要因の一つとしては、審議時間の問題が挙げられる。「意見を言う時間をもう少し取れないか」といつも思う。「もう少し時間をかけて意見交換、議論ができるといいかと思う」という御意見があることから、質疑応答にかかる時間や、委員同士が意見交換を行う時間を十分に設けるよう心がける。

(8) 審議会等の開催日時・会場はどうでしたか。〔〇は一つ〕

| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|---------|---------|--------|
| 適当であった | 34 | 82.9% |
| 適当でなかった | 6 | 14.6% |
| 無回答 | 1 | 2.4% |
| 全体 | 41 | 100.0% |

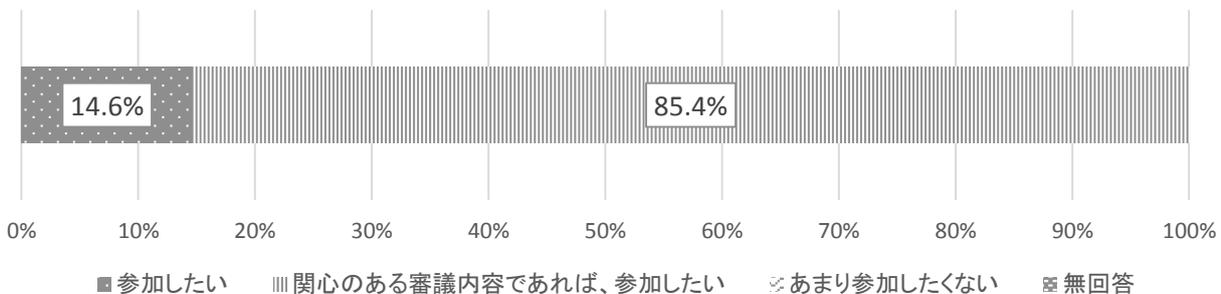


時間や会場については、「座長の日程ありきで、それに限定されすぎている」「短期間に会議が集中しすぎ」「午前中又は夕方の開催にしてもらいたい」「土日に開催してほしい」「日程の事前調整をしてほしい」という御意見があった。

日程の事前調整は、より多くの委員に参加いただくために必要な配慮である。また、余裕のある会議開催を進めるよう努める。一方で、短期間で開催しなければならない場合は、市民委員の募集段階等で短期間の開催となる理由の説明等を行い、日程が限られていることを御理解いただく。

(9) 他の審議会等にも参加したいと思いますか。〔〇は一つ〕

| 選択肢 | 回答数 (人) | 構成比 |
|---------------------|---------|--------|
| 参加したい | 6 | 14.6% |
| 関心のある審議内容であれば、参加したい | 35 | 85.4% |
| あまり参加したくない | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 41 | 100.0% |



審議会等において、市民委員が加わり、意見を発言できる環境を整える。また、市民が市政に対して関心を持ち、関わってみたいと思えるように、市の事業について積極的な情報発信を行う。

(10) さらに市民参加を進めるためには、どのような取組みが必要だと思いますか。

| 項目 | 意見（要約） |
|-------|---|
| 広報広聴 | <ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページや広報つくばへの掲載を継続して実施する。 ・さらに幅広い広報、きめ細かな広聴が必要である。 ・回覧板等による各戸回覧、又は配布 ・関連施設へのチラシ等の設置 ・「関心の高い市民の参加しやすさ向上」に加えて、「関心が低い」「知らない」市民へのアプローチを拡充すると良いと思う。 |
| 実施手法 | <ul style="list-style-type: none"> ・審議会委員の役割を難しくせず、市民が気軽に参加して意見を言うことができるものにする。 ・市民参加できる審議会や懇話会を増やし、行政職員の仕事を減らす。 ・来庁時の待ち時間に番号札とアンケート用紙等を一緒に配布し、回答してもらう。 ・転入届を提出した方に対してつくば市への期待や各課毎の独自のアンケートを実施する。 ・Webを使った簡単なアンケートの実施 ・テーマによっては、これまでの会議のあり方を見直すことも必要だと思う。 ・幅広い層の市民から、様々な意見を求める機会の場を行政側から提供することが重要と思われる。 ・市民と実際に事業を担当する職員が意見交換をする場を設ける。 ・地域の問題を抽出して、検討会議や研修会等を開催し、市民の参加を促す。 ・市のサービス提供施設と関わりの深い事業に関して意見を募集するポスターの貼付及び出張ヒアリング会の開催 |
| 意見の反映 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民の声を生かし、改善されたこと等のアピール事例を広報する。 ・「意見を汲んでもらえた」「参加したかいがあった」と市民が実感できれば、さらに建設的な考えを伝え、行動しようという動きにつながるのではないかと。 |
| 会議録 | <ul style="list-style-type: none"> ・各審議会の議事録の公開を進めてほしい。 |
| 委員の募集 | <ul style="list-style-type: none"> ・募集に関しては、関連するイベントや施設等での周知を積極的かつ丁寧に行うと良い。 ・市政に少しでも興味がある層を狙い、「参加することにより得られるものがある」という感じが出せると良い。 ・参加のしやすさを広め、市民委員を募集していることを伝えることが大切かと思う。 ・市民委員の意義を市ホームページや広報などでアピールしてほしい。 ・市民委員を募集する際、審議内容やテーマへの取組み経験等のある人に対して積極的応募を呼びかけることも必要 ・市民委員の会議での様子等を募集時に公開、情報提供することで、応募者の心理的なハードルを下げるようにする。 ・一律に審議会の市民委員の割合を決めることは、市民にとってマイナスであるように思う。 |
| 開催場所 | <ul style="list-style-type: none"> ・審議会の土日開催などを進め、自由に時間をとれない人が市民委員に応募しやすいようにしてほしい。 ・自宅のパソコンを使用したWeb会議の開催 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・市議は住民の代表でもあり、市民委員以外に市議も1名加えるべきと考える。 ・市職員も一緒に汗を流す位の努力が感じられる姿勢が好感が持てるか。 ・ライフスタイルの多様化など生活環境が変化してきている中で、人と人とのつながりや地域との絆を構築すること。 ・地域に横たわっている諸問題を解決すること。 ・シンポジウム「図書館の未来のかたち」は、まさに市民参加型の試み。図書館審議会にぜひ取り入れてほしい手法だと感じた。 ・つくば市は多くの活動を行っており、とても好感を持って参加している。 ・市長自ら出向いての説明会など、市民参加意識を上げるととても良い取組みをしていると思う。継続してほしい。 ・審議会市民委員、市民ワークショップ、市民説明会、会える市長等、つくば市は市民参加を最も促進している自治体の一つであると思っている。 |

(11) 審議会等に参加した感想があれば、ご自由にお書きください。

| 項目 | 意見等 |
|---------|--|
| 職員について | <ul style="list-style-type: none"> ・委員からの質問に職員が丁寧に答えてくれたことが印象に残っている。 ・行政課題に対するつくば市の対応、市職員の市政への取り組みが前向きであることを改めて感じる事ができた。 ・職員はやるべきことが多く、なかなかやりたい事にまで時間がまわらないのかなという印象を受けた。 ・職員が熱意を持って取り組んでいることがわかった。市民で手伝えることがあれば、一緒に取り組むこともできると思った。 ・職員には、資料作成等において多大な事務負担が発生しているものと心配している。IT等を活用し、職員の負担が発生しない工夫も必要かと思った。 ・行政のプロとしての姿勢を謙虚に表現したら良い。 ・日頃から市がお世話になっているのか、特定の委員をやや特別扱いしている様子が見てとれ、気になる。 |
| 日程、時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・懇話会の回数や期間が短かった気がする。 ・時間に追われ、じっくり考えるというよりも、用意された内容を司会者が読み上げ、意見がなければ先に進むという会で、これでいいのだろうかと思った。 ・事案の内容があまりにも多く、事業の内容を深く理解できない時もあった。開催回数を増やしてじっくり説明を受けたい。 ・質疑応答では、もう少し時間をかけて意見交換・議論が出来ると思う。 |
| 勉強会、交流会 | <ul style="list-style-type: none"> ・審議会開催前に情報収集のための「市民委員の会」のようなものがあると、現場の考え方が分かり、より実効性もあり、理念も作りやすいのではないかと。 ・企画段階で市民委員が参加、職員と共に考える場を設定できればと思う。 ・個々のプロジェクトの改善策等に市民委員も参加、議論できる時間と場があるとよかったですと思う。 ・委員と職員が交流できる時間をとってもらえると、コミュニケーションが深まっていく |
| 環境、雰囲気 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民委員と有識者との間に距離を感じた。”オマケ”感が強い感じがした。 ・委員同士での話の深まりはなく、形式的なものだった。司会者は先へ先へ速くこなそうとしていると感じた。 ・有識者の発言が意外と少なかった。社会経験のある市民委員から、疑念や課題が提起されたことはよかったと思う。 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門性が高く、役所内の事務に関する要素が多い審議内容であり、「市民感覚の反映」という面で、どれほど意義があったのか疑問に感じた。 ・審議の形式が決まっているわりに、何を審議して欲しいのかよく判らないことが多い。 ・議事の論点を明確にし、議論を進める必要がある。 ・施策評価は、もっと改善策などを話し合えたら良いと思いつつ、とても難しかったように思う。市民意見を生かすのであれば、他の方法もあって良いと思った。 ・すでにゴールが立派に出来ており、そこに至る寄り道もできないような気がする。 |
| 機会 | <ul style="list-style-type: none"> ・「魅力あるつくば市」の実現のために自分では協力して行きたいと思う。 ・有識者の意見もとても興味深く、進行の委員の力量もあり、毎回会議が楽しみだった。 ・自分のステップアップにつながるようで勉強になる。 ・地域住民の視点から、市の施策に直接関わったことは、市政を身近に感じるよい機会となったと思う。 ・それぞれの立場での意見を聞くことができ、大変面白かった。教育あるいは地域や専門を代表する委員の意見も聞きたかった。 ・雰囲気に押され萎縮しそうになるが、自分にできる範囲で今後がんばりたいと思う。 ・適切な人選によるものか、活発な意見交換ができ、新たな計画案にもそれが反映されたと考えている。 ・市の様々な取り組みを理解することができた。逆を言えば、様々な取り組みを実施していることを市民は知らないと思う。 |
| 要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・日程の事前調整を行ってほしい。 ・「なぜ市民から意見を求めたい」と表立って言っているのか、趣旨をわかりやすく発信してもらいたい。 ・多種多様な意見が出ている中で、担当課にて対応しきれない部分があるため、早急に対応してもらいたい。 ・議事録を作成し、委員へ配布してもらいたい。 ・3時間の会議では喉を潤すものが必要ではないか。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・市長がいつも挨拶だけで退席されることが残念 |

その他

- ・審議会の成果がどのように政策に反映されたのか、まだ見えないので、これからの取り組みを楽しみにしている。
- ・市の施策について計画の段階から意見を聞くことは、市民参加のまちづくりのためには重要なことだと思う。
- ・審議会が1回しか開催されなかったことが残念（性質上やむを得ないものと思うが。）
- ・全ての審議会に市民参加を進めるという方針は悪くないと思うが、もう少し柔軟に運用してはどうか。
- ・本来の意味での市民参加がいなかった。
- ・審議会後に上層部に報告し、どの様な反応があったのか、又、今後の施策にどの様に反映されていくのかが分からないので心配。
- ・審議と言えるほど委員に意見が求められていないため、もう少し専門性のある意見の場が用意されていても良いと思う。

審議会等への市民委員の参加に関するアンケート集計結果

1 調査期間

平成30年12月4日～平成30年12月12日

2 調査対象

平成30年度に「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員の市民募集並びに委員等候補者の登録に関する要綱」に沿って市民委員の募集を行い、会議が開催された審議会等14件

3 調査方法

庁内メール送付・回収

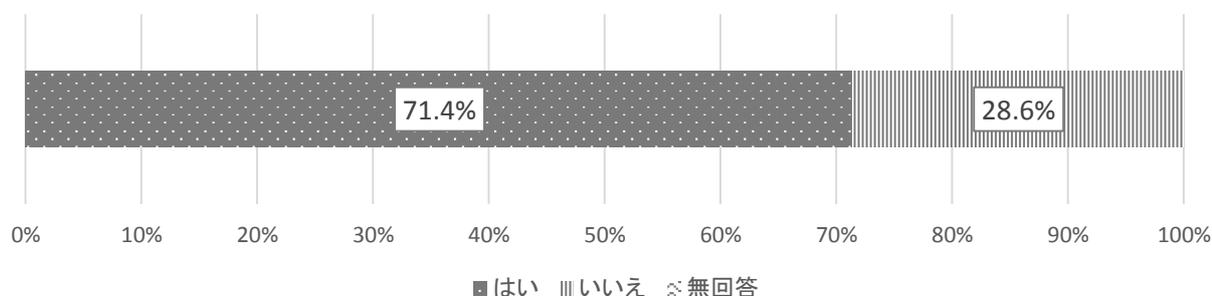
4 回収状況

発送数 14件
回収数 14件
回収率 100.0%

5 集計結果

(1) 所管する審議会等における市民委員の公募は、「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員並びに委員等候補者の登録に関する要綱」策定後に初めて行われましたか。〔〇は一つ〕

| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 10 | 71.4% |
| いいえ | 4 | 28.6% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 14 | 100.0% |

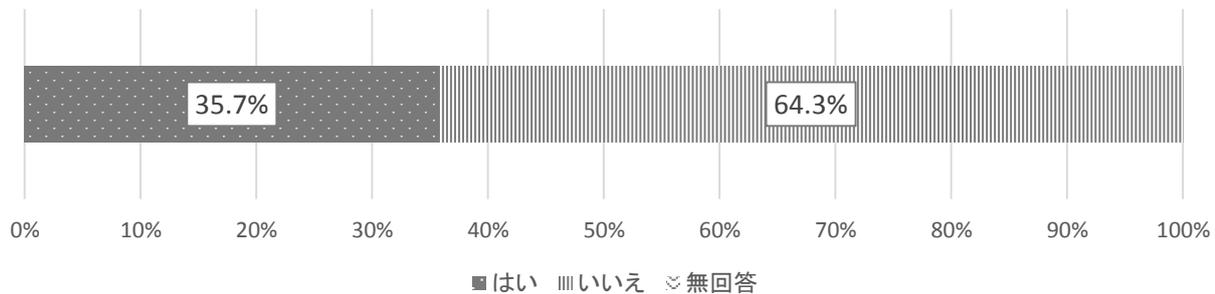


平成30年4月に「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員の市民募集並びに委員等候補者の登録に関する要綱」が策定されたことにより、初めて市民を委員に加える審議会等が増加した。うち2件については、市民を委員に加えるため、条例の改定が行われた。審議会等の性質等により、市民の募集が馴染まないものもあるが、本要綱が策定されたことで、市民が市政に参加する機会の拡充に繋がった。

(2) 審議会等の開催にあたり、市民委員が参加しやすい「場所」や「時間」等を考慮しましたか。

[○は一つ]

| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 5 | 35.7% |
| いいえ | 9 | 64.3% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 14 | 100.0% |



はい(具体的にどのような点に考慮したか)

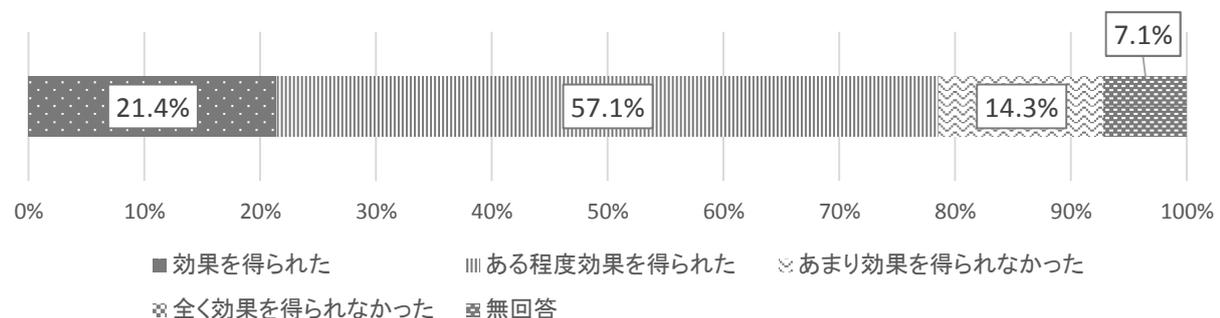
- ・開催の1か月前には開催日を決定し、市民委員が日程の調整を行いやすいように配慮した。
- ・市外在住の方を考慮し、電車でのアクセスがしやすい本庁舎での開催とした。
- ・休日、夜間の開催を避けた。

「場所」や「時間」等について考慮がされなかったと回答する審議会等が多い。理由としては、「有識者の予定で日程を決定していることが多い」「会議のスケジュールがすでに決定している」等が挙げられている。

市民参加の効果を最大限発揮するためには、全ての委員に公平に日程調整を行う必要がある。座長のスケジュールの都合や、審議会等によっては、スケジュールが定められているもの等もあるが、できる限り、より多くの委員に出席いただける日時で開催ができるよう努める。

(3) 市民委員の参加による効果はありましたか。〔当てはまるもの全てに○〕

| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|---------------|---------|--------|
| 効果を得られた | 3 | 21.4% |
| ある程度効果を得られた | 8 | 57.1% |
| あまり効果を得られなかった | 2 | 14.3% |
| 全く効果を得られなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 7.1% |
| 全体 | 14 | 100.0% |



「効果を得られた」、「ある程度効果を得られた」

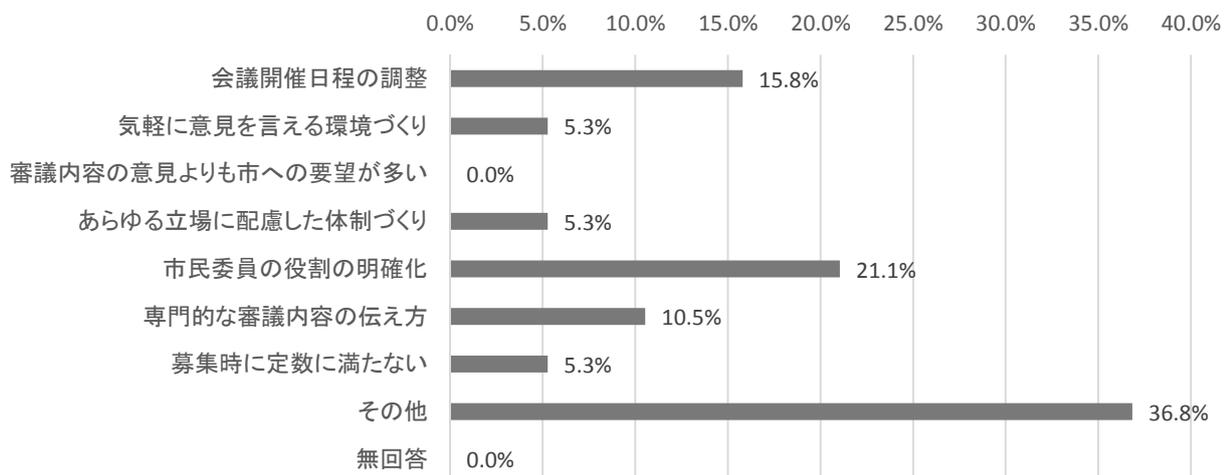
- ・市民の立場として、どのように感じるか、その場で確認することができる。また、率直な意見を聴くことができる。
- ・市民委員が積極的に発言することにより、会議が活性化した。
- ・組織にとらわれない、自由な立場からの意見を得ることができた。
- ・有識者や専門家等とは異なる視点での意見があり、計画の策定に市民意見を反映できた。
- ・市民の目線を見て、わかりにくい部分がどこか気づかされることも多く、施策の方針や計画の表現等に意見を反映させることができた。
- ・積極的な発言を得られた。普段利用する施設について御意見をいただけた。
- ・選定に係る採点において、施設利用者である市民意見もある程度反映できたと思う。

- ・それぞれの立場や経験等に基づいた御意見をいただいたことで、アンケート作成の参考になったほか、意見交換会の開催等に繋げることができた。

市民の立場として感じることで、わかりにくいところについて積極的に意見を得ることができたということで、「効果を得られた」「ある程度効果を得られた」という回答が多かった。
「あまり効果を得られなかった」という回答については、審議内容が正しく伝わっていなかったということが理由として挙げられている。審議会等の所管課等においては、市民委員が発言できるための十分な情報や発言しやすい環境を整える必要がある。

(4) 市民委員が参加するうえで、今後の課題は何ですか。〔当てはまるもの全てに○〕

| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|--------------------|---------|--------|
| 会議開催日程の調整 | 3 | 15.8% |
| 気軽に意見を言える環境づくり | 1 | 5.3% |
| 審議内容の意見よりも市への要望が多い | 0 | 0.0% |
| あらゆる立場に配慮した体制づくり | 1 | 5.3% |
| 市民委員の役割の明確化 | 4 | 21.1% |
| 専門的な審議内容の伝え方 | 2 | 10.5% |
| 募集時に定数に満たない | 1 | 5.3% |
| その他 | 7 | 36.8% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 19 | 100.0% |

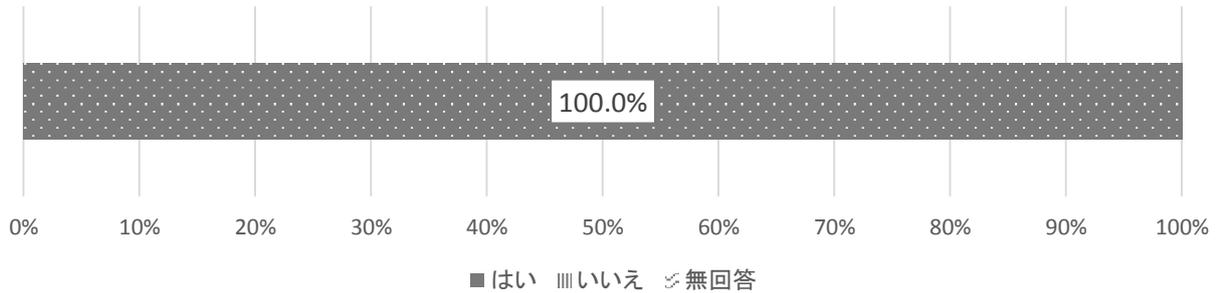


その他 (具体的に)

- ・審議会等の目的や審議内容のイメージが市民委員に正しく伝わっていなかったため、公募の段階から目的、審議内容について繰り返し伝えることが必要である。
- ・開催日が限定され、短期間に会議が集中したため、会議にあまり参加できない市民委員が出てしまった。
- ・委員数の多い会議であることから、日程調整が難しい。
- ・会議の開催時間の関係上、委員の発言する機会や時間が限られてしまう。
- ・市民委員の募集から選考にかかる期間が3か月必要であるということ。
- ・公募等で適任者が選任できない場合がありえる。

(5) 市民委員は審議会中に自らの意見を言うことができていると思いますか。〔〇は一つ〕

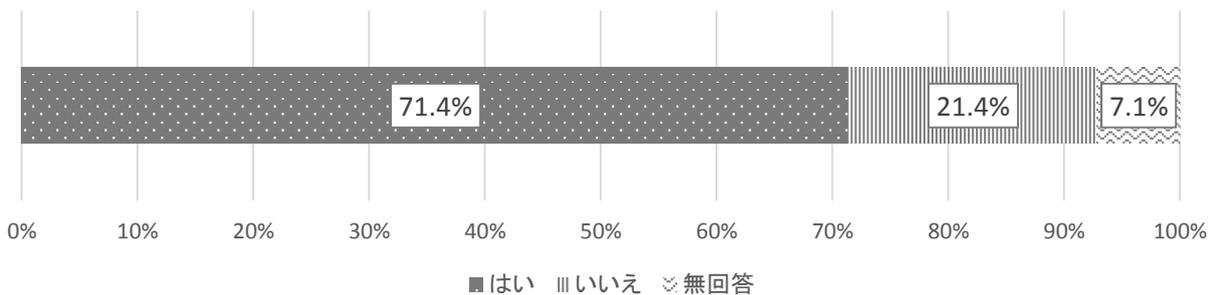
| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 14 | 100.0% |
| いいえ | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 14 | 100.0% |



全ての審議会等で、市民委員は自らの意見を発言することができていたとの回答があった。一方で、市民委員へのアンケート調査では、「あまり意見を言うことができなかった」との回答もあったため、職員と市民との間で少し認識にずれがあることがわかる。

(6) 市民委員が発言しやすいような環境づくりに配慮しましたか。〔〇は一つ〕

| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 10 | 71.4% |
| いいえ | 3 | 21.4% |
| 無回答 | 1 | 7.1% |
| 全体 | 14 | 100.0% |



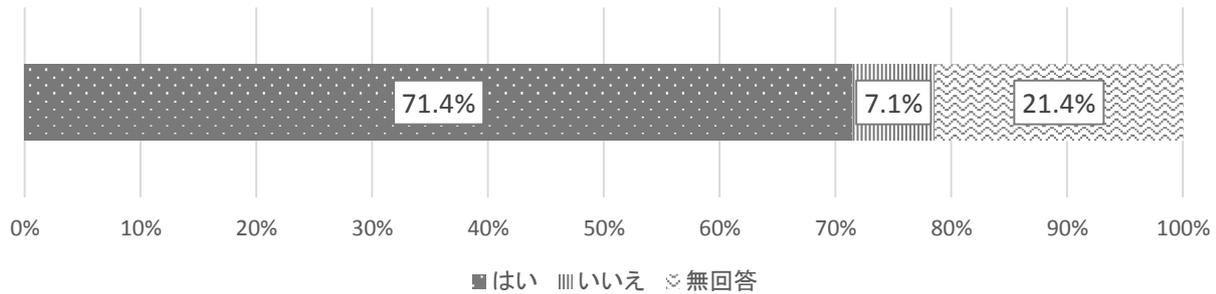
配慮した

- ・市民委員を含め、委員全員が発言する機会を設けるよう、座長があらかじめ配慮してくれた。
- ・事前に資料の配付を行った。電子申請システムを活用し、意見や提案を受け付けた。
- ・会議の流れが複雑であり、スケジュールがタイトであったため、会議開催前に市民委員に対し会議概要の説明を行った。

「いいえ」については、会議の開催時間の都合上、委員が発言する時間や機会が限られてしまったことが理由として挙げられる。改善策として、事務局からの報告等の時間を短縮するとともに、委員等の均等な発言機会を設け、簡潔な発言を求めていくとしている。

(7) 計画等の策定や評価等に市民意見の反映はありましたか。〔〇は一つ〕

| 選択肢 | 回答数 (件) | 構成比 |
|-----|---------|--------|
| はい | 10 | 71.4% |
| いいえ | 1 | 7.1% |
| 無回答 | 3 | 21.4% |
| 全体 | 14 | 100.0% |



計画等の策定や評価等に市民委員の意見の反映を行った審議会等が多い。
なお、「いいえ」については、今回の審議として、計画等の策定や評価等を扱う内容ではなかったということ、また、無回答については、審議がまだ続いており、反映まで至っていないということが回答の理由である。

平成 30 年度市民参加取組状況中間報告

| | |
|------------------------------|--|
| <p>取組概要</p> | <p>平成 30 年 3 月 「つくば市市民参加推進に関する指針」 策定 平成 30 年 4 月 「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員の市民募集並びに委員等候補者の登録に関する要綱」 策定</p> <hr/> <p>4 月 市民参加推進に関する職員向け説明会（全 2 回 約 130 名出席） 5 月 無作為抽出による市民委員等候補者の登録開始 登録期間：平成 30 年 6 月 1 日から 2 年間 11 月 市民参加に関するアンケート調査実施（審議会等の市民委員等） 12 月 審議会等における市民の参加に関するアンケート調査実施（職員） 通年 市民委員の募集に関する市ホームページの情報更新</p> |
| <p>成果</p> | <p>市民委員の募集が可能な審議会等のうち、今年度が委員等の改選時期に当たる全ての審議会等で市民委員の公募を行い、市長公約事業のロードマップにおける KPI「要綱に基づき、市民委員の任命、選任を規定している附属機関及び懇談会等のうち、実際に市民委員を募集した附属機関及び懇談会等の割合を 100%にする」を達成した。また、2 件の審議会等で市民を委員に加えるために条例の改正が行われた。加えて、市民委員に行ったアンケートでは、自分の意見を言うことができた、十分言うことができたと回答した人が約 95%という結果になった。審議会等の所管課等に行ったアンケートでは、市民委員の意見を計画等の策定や評価に反映した審議会等が約 71%という結果になっている。</p> |
| <p>主な課題</p> | <p>市民参加を今後より一層推進していくためには、市民への情報発信を工夫することが重要である。公聴会、住民説明会等の「市民参加の取組み」を開催した際に、十分な周知ができず、参加者があまり集まらなかった取組みがあったほか、市民委員に行ったアンケートでは、審議内容や市民委員の役割がわかりにくいという意見が上がっている。</p> <p>さらに、市民意見が計画等に反映されているか、市民参加による結果や成果が市民から見えにくいという点も主な課題の一つとして挙げられる。</p> |
| <p>主な課題 に対する 取組み</p> | <p>情報の発信に当たっては、「市民参加の取組み」の開催について、できる限り多くの市民の目に留まるように十分な期間を設ける。また、審議内容等をわかりやすく伝えるために、企画経営課で必要事項を記入するフォーマット等を作成し、市民委員募集の際に各審議会等の所管課等が使用できるようにする。</p> <p>審議会等においては、市民参加の効果を最大限発揮できるように、審議内容や関連事業に関する事前説明を徹底するとともに、必要に応じて職員との意見交換や理解を深めるような取組みも進めていく。</p> <p>市民意見の反映等については、企画経営課で毎年度市民参加の取組み状況の庁内調査を実施し、その結果を市ホームページ及び広報紙に掲載することで、市民が市民参加による結果や成果に関する情報を得るための環境を整える。</p> |